

瑞典國代表「イ・ピ・ガウエル」第一派遣所  
訪問ノ際ニ於ケル問答事項

昭和十九年四月二十八日 自一〇、〇〇〇  
至一二、一〇〇

代表 側	瑞典國公使館	イ・ピ・ガウエル
收容所側	所 員	濱 田 少 佐
	第一派遣所長	千 須 和 少 尉
	所 員	大 西 通 譯 官

ガウエル問（以下同ジ）

「先ヅ和蘭人俘虜ニ會ヒタシ」

濱田少佐答（以下同ジ）

「上司ヨリ指示ニ依レバ此度ノ當所御訪問ハ當所俘虜「ヘツトランド」トノ會見ガ主タル目的デアルト承ツテモルカラ先ヅ彼ニ會ヒ、時間ガ許セバ和蘭人ニ會フ様ニセラレタラ如何」

「承知シマシタ」

「會談時間ハ三十分以内ニ願ヒタシ」

「分リマシタ。「ヘツトランド」ハ瑞典人デアリマスカ、尙此點明瞭ナラザル處ガアルノデ之ニ付調査シタイト思ヒマス。若シ彼ガ瑞典人デアレバ彼ガ解放方努力致度故彼ノ國籍等ニ付テ調べタシ。他ノ俘虜收容所ニ於テ、瑞典人俘虜ノ解放セラレタル例モアリマス」

「ヨロシイ。但シ政治經濟戰鬪等ニ關スル質問ハ遠慮サレタシ」

「分リマシタ。單ニ個人的ノ事柄ニ付テノミ質問シマス。尙特ニ「ヘツトランド」ニ小包ヲ贈リ度イト思フガ如何」

「ヨロシイ。但シ小包ノ内容ハ當方デ檢閲スル故御含ミ相成度」

「承知シマシタ。「ヘツトランド」ガ日本ニ俘虜トナツタ船ノコトヲ訊イテモヨロシキヤ」

「ソレハ戰爭ニ關係アル故遠慮サレ度シ」

「ハイ。シカシ右ノコトハ既ニ俘虜情報局カ知ラセテイタダイテ居リマスガ詳シイコトハ覺エテイナイ」

以下「ガウエル」對「ニュージランド」人俘虜「ヘツトランド」問答

ガ「自分ハ瑞典ノ事ニヨリオ前ノ解放方努力シツツアルモオ前ハ瑞典以外ノ國ノ歸化權ヲトル手續ヲシタノカ。

ヘ「私ハ一九二九年「ニュージラント」ニテ結婚シタガ自分ノ子供ヲ保護スル必要上英國ノ歸化權ヲ得マシタ

ガ「デハ「ニュージラント」ノ旅券ヲ貰ツタノカ

ヘ「歸化權ハ得タガ旅券（パス・ポート）ハ貰ハナイ。從ツテ英吉利ニ行ツタ場合ニハ英國ニテ新ニ歸化權ヲ申請スルノ要アリト思ヒマ

ス  
ガ「デハオ前ハ未ダ瑞典人ノ國籍ヲ有シテセルワケデアル、「ニージ

ーランド」ノ歸化權ハ「ニュージラント」ニノミ限ルノダカラオ前ハ瑞典ノ市民權ヲ失ツタワケデハナイ。處デ「ヘットランド」ノ

所持シテイル歸化權ノ證明書ヲ見<sup>セ</sup>テ欲シイト思フガ如何

濱田少佐「ソレハ俘虜情報局ヲ通ジテ申請シテ頂キ度シ

ガ「承知シマシタ。情報局ノ誰ニオ願スレバヨロシキヤ

濱田少佐「保田中佐ニ願ヒ出デラレ度

ガ（ヘットランドニ對シ）「濱田少佐ノ御好意ニヨリオ前ニ小包ヲ送

ル辭可ヲ得タルモ何か欲シキモノナキヤ

ヘ「砂糖カ脂肪分ノアル食物ガ欲シイ

ガ「油カ「バター」カ何レガ良イカ。油ノ方ガ永持スルト思フガ

ヘ「何レデモ結構デス

ガ「他ニ何か望ミナキヤ

ヘ「自分ノ在所ヲ妹ニ知ラセタイガ

ガ「瑞典ノ妹ハ既ニ知ツテセル。瑞典本國ノ方ヨリ依頼サレテ、自分ハ今日訪ネテ來タ次第デアル。

濱田少佐（ヘットランドニ對シ）「家へ手紙ヲ書イタカ

ヘ「「ニュージラント」へハ出シマシタガ瑞典ニハ出シマセヌ

濱田少佐「何故出サイノカ

ヘ「一回ニ一通シカ出セナイカラ「ニュージラント」ノ妻子ノ方ニ

出シマシタ

ガ「脚氣ダトノ事ダガ工合ハ如何

へ「今マデ病室デ數度治療ヲ受ケタ勞今デハ「リユーマチ」ヲ患ツテ  
キル

ガ「ソレニ付瑞典ノ身内ニ知ラセタイト思フガ病氣ノコトヲ家族ニ知  
ラセテモ宜シキヤ

濱田少佐「ソレハ支障ナキモ當方トシテハ病人ニ對シテハ充分ノ治療  
ヲ施シテモル。此點日本政府ニ信頼セラレ度

ガ「ヨク分リマシタ。デハ知ラセヌ方ガイイト思ヒマス。心配スルカ  
ラ

濱田少佐「當人ノ病狀ハ輕症デアリ尙彼ニハ充分世話ヲシテヤル心算  
デアルカラ、當方ヲ信頼サレ度

ガ「(ベツドランドニ對シ)自分ハ瑞典公使館員トシテオ前ノ解放ニ  
努力シタシ。オ前ガ「ニュージールランド」人デアルトユフ問題等ハ

別トシテ何か他ニ望ミナキヤ  
へ「自分ハ非軍人デアルノニ、軍人ト一諾ニ捕虜トナツテキルノハ不  
當デアルト思フ

濱田少佐「解答ノ限リデハナイ。ソレハ全ク日本政府ノ考ヘニヨル口

オデア

ガ「分リマシタ。「ヘツドランド」ノ「ニュージールランド」ノ徵兵關  
係ハドウナツテモルノカ

へ「徵兵關係ハアリマセン

ガ「(濱田少佐ニ對シ)小包ノ大キサハドレ程ニシタラヨロシイカ  
濱田少佐「大キサニ制限ナシ

ガ「送ル品物が果シテ入手出來ルカ否カ疑問デスガ。尙「ヘツドラ  
ド」ノ解報ノ件ニ付彼ノ解報方努力中ナル旨ヲ「ニュージールランド」  
ノ妻子ニ知ラセテモ宜シキヤ

濱田少佐「宜シイ

へ「小包ニ「ビスケット」ヲ入レテ欲シイ

濱田少佐「差支ナシ。然シ送ルノニ永クカカルト思フカラ包裝ヲシツ  
カリシテオカレ度

ガ「イヤ瑞典公使館ヨ送ルノデスカラソノ心配ハアリマセン  
濱田少佐「俘虜ハ小包ハ俘虜郵便規定ニヨリ特別ニ取扱フコトニナツ

テキルガ收容所トシテハ何ラノ制限ヲ附シテモナイ  
ガ「小包ハ郵便ニ依ラズ直接「メンセンチャイ」デ送達シタイト思フ  
ガ如何

濱田少佐「支障ナシ。但シ當方トシテハ本人立會ノ上デ檢閲シ差障リ  
アル品ハ渡サナイカモ知レヌカラ此點了承サレ度  
ガ「承知シマシタ

(ヘツドランド退場)

濱田少佐對<sup>ガ</sup>ウエル問答

ハ「何カ收容所ニ付テ質問アリヤ  
ガ「開設サレタ年月日ハ  
ハ「昭和十七年十一月二十七日  
ガ「ソレハ俘虜ガ來タ日デスカ  
ハ「然リ  
ガ「現在ノ收容人員ハ如何  
ハ「四四三名  
ガ「收容能力ハ如何

ハ「八〇〇人  
ガ「其他ノコトニ付テハ少佐殿ヨリオ話シラ伺ヘバ結構デス  
ハ「收容人員ノ内<sup>譯</sup>位ヒデ他ハ間ニ依リ差支ナキ限り御答スル  
ガ「俘虜ノ通信ハ如何  
ハ「二ヶ月ニ一回。正確ニイヘバ四ヶ月ニ封書一ハガキ一デア  
ガ「全部ニ同ジカ  
ハ「全部同ジデア  
ガ「各收容所ニヨリ異ナルノカ、ソレトモ規則ニヨルノカ  
ハ「東京俘虜收容所ノ規則ニヨルモノデ陸軍省ニモ報告シテアルガ、  
概ネ全國ノ收容所ニ付テモ同ジト思フ  
ガ「收容所ニヨリ異ナル<sup>ト</sup>思フ。大阪收容所ヤ福岡收容所ハ少シ違ツテ  
居リマスカラ殊ニ大阪デハ將校ニハ餘分ニ奮カセテキマス  
ハ「ソレハ知ラナイガ當方ハ當方トシテヤツテモルノデコレハ情報局  
ニモ報告<sup>シ</sup>テアル  
ガ「個人ヨリノ小包ハ許サレテモルカ、又受取ツテモルカ

カ

ハ「受取ヲテキル

ガ「食料ニ付テ聞キ度イガ如何

ハ「ヨロシイ。答へ得ル範圍ヲ御答へスル

ガ「分量ニ付イテハ如何

ハ「勞務者ニ對シテハ一日七八六瓦、之ハ日本兵ト同量デアル。併シ

將校ハ之ヨリ少ナク六四〇瓦デアル

ガ「ソレハ相當多イ。米デスカ

ハ「米及所謂穀類（之ハ主食）ソノ他ニ副食ガアル

ガ「バンハ如何

ハ「以前ハ相當與ヘタガ自製ガ出來ヌ爲他ヨリ購入シテキル關係上今

季節デハ腐リ易ク以前程與ヘテキナイ

ガ「分リマシタ。他所ト同ジ様ニ朝ハ米ト「スープ」晝ハ米、夜モ米

ト「スープ」デスカ

ハ「イヤソウデハナイ。右ノ外肉ヤ魚肉ヲ與ヘテキル。即チ肉ハ一週

二回魚肉ハ肉ノナイ日ニ與ヘ一週五回、他ニ食油ヲ多量即チ一日三

〇瓦與ヘテキル。更ニ野菜等ヲモ與ヘテキル

ガ「此處デ野菜ヲ作ツテキルノデスカ

ハ「作ツテキル其他鶏ヤ近ク山羊ヲ飼フ豫定ダ

ガ「重要ナ問題ト思フガ、集團的ニ減食罰ヲヤツテオラルルヤ

ハ「否、ヤツテキナイ

ガ「俘虜全体ノ空氣ハ如何。大部落付イテキマスカ

ハ「ソレハ見方ニモヨルガ、當方トシテハ犯罪者モ少ナイ點ヲ見ルト

公證ナル待遇ニ大体満足スルモノト認メル

ガ「ツマリ満足シテキルノデスカ、シカシ解放ヲ希望シテキルデセウ

ハ「ソレハ當然デアル。ダガ彼等ガ満足シテ居ルコトハ反則者ガ少ナイ

事實ガ之ヲ證明シテキル

ガ「醫者ガ來マスカ

ハ「勿論來ル。一週三回來ル他ニ本所ヨリ軍醫ガ時々見廻ル

ガ「齒科醫ハ如何

ハ「外部ノ醫者ニ見セテキル

ガ「齒科治療ハ無料カソレトモ有料カ

衛生

ハ「無料デアツテ経費ハ軍ガ負擔シテキル  
ガ「俘虜ノ要求ニ應ジテ治療スルノデスカ  
ハ「然リ

ガ「「ヘツドランド」ノ様ナ非軍人ハ強制的ニ働クノカ、ソレトモ自  
由意志ニヨリ働クノカ

ハ「日本軍ノ規則ニ依リ將校ニハ勞務ヲ強制シナイガ、非軍人ニハ右  
ノ様ナ規則ナキ故必要ニ應ジ勞働ヲ命ジテキル

ガ「ツマリ働イテキルノデスネ

ハ「之ハ日本軍ノ規定ニヨルモノデ條約ニ左右サレテヤツテイルコト  
デハナイ

ガ「死亡者ハ如何

ハ「始メニハ大分アツタガ今ハ少クナツタ

ガ「和蘭人ノ死亡者ハ?

ハ「ナシ

ガ「下士官ハ兵ト同様ニ働イテキルノデスカ

ハ「大体同ジデアル

ガ「勞務ハ收容所デ定メルノカ、會社デ定メルノデスカ

ハ「收容所長ガ決定スル

ガ「會社ノ仕事ハ人足トカ荷揚ゲダラウト思ヒマスガ

ハ「ソレハ彼等ノ既往ノ技能ヲ基礎トシテ働カセテキルノデ、例ヘバ  
製圖、電氣工事等ニモ使用シテキル

ガ「休ミニ付テハ如何

ハ「大体一週一日。一日ノ中デハ午前、晝食、午后ニ各々度宛休ム

ガ「ソレデハ働ク時間ガ少イデセウ

ハ「實働時間ハ八時間デアル

ガ「勞賃ハ全部使ヘルノカ、一部分使ヘルノデスカ

ハ「日用品ハ全部支給シアル故必シモ使フ要ナシ

ガ但シ煙草、紅茶等ヲ餘分ニ望ム者ニハ使用スルヲ許可シテ居ル

ガ「自由ニ使フノカ

ハ「自由ニ使ヘル

ガ「非軍人モ兵ト同額ヲ支拂ルルカ

ハ「然リ。非軍人ノ身分ニ應ジテ例ヘバ高級船員ハ准士官並、中級ハ下士官並、下級ハ兵並ニ取扱ツテキル

ガ「アル收容所（臺灣）ノ如キハ非軍人ハ無給デ働キ、故國ヨリ支拂ヲ受ケテキルソウダガ

ハ「ソレハ何かノ誤解デハナイカ。日本ノ收容所デハカカル事實ハアリ得ナイト思フ。右ノ如キ場合ハ多分健康保全ノ爲ノ仕事デアツテ勞務デハナイノデアラウ

ガ「サウカモ知レマセン。給料額ハ如何

ハ「將校及赤十字社ノ正式ノ證明又ハ紀章ヲ有スル衛生下士官兵ハソレゾレ日本ノ相當階級ノ給料ヲ與ヘテキル

ガ「現金デ與ヘルノデスカ、公債デスカ

ハ「紙幣デ與ヘ將校ハ五十圓ヲ所持サセアトハ貯金サシテキル

ガ「平均年齢ハ如何

ハ「三十二歳、最高ハ五十七、最低二十一歳

ガ「俘虜ガ何か一般的ノ不平、要求等ヲ持ツテ居マスカ

ハ「當初ハ戦争等ニヨリ消化機能ヲ害シテイタノデ、日本ノ生活ニ慣

レナイ爲消化不良ヲ心配シテ食料ヲ減ジテキタノデ、食料ノ少ナイトイフ不平ガアツタガ今デハ大分生活ニ馴レタノデ逐次増加シテ本月二十一日ヨリ、七八六瓦ニ殖ヤシタ次第デアル

ガ「點呼ハ何回デスカ

ハ「一日二回、朝ト晩

ガ「處罰エ付テハ如何。處罰サレタ例アリヤ

ハ「處罰ノ例アリ。當所ニテハ今マデニ八名處罰セリ

ガ「逃亡ハ如何

ハ「逃亡ハナシ。主ナモノハ食料ノ盗ミデアル。英米人ニ案外泥棒ガ多イノハ意外デアル

ガ「ヒモジイカラデセウ。逃亡ハ日本ノ如キ島國デハ先ヅ氣狂デナケ

レバ企テヌデセウ。尙食料ヲ盗ンダ時ノ處罰ハ如何

ハ「程度ニヨリ異ナリ重キハ軍法會議ニカケルガ輕イモノハ重營倉又

ハ制縛監禁ニスル

ガ「酒保ハ何回開ケマスカ

ハ「配給ニ制限アル故毎日ハ開カレヌガ配給アル毎ニ開イテキル

「ガウエル對和蘭俘虜代表（ブーン中尉）問答」

濱田少佐「和蘭俘虜ニ對シ如何ナル尋ラ訊カルルヤ」

ガ「待遇全般ニ付質問致度シ」

濱田少佐「待遇ニ關シテハ日本政府ニ信賴シ本問題ニ付質問スルハ遠慮サレ度」

ガ「承知シマシタ。テハ些細ナ事柄ニ付訊ネマス」

濱田少佐「日本政府ハ嚴正ナル軍紀ノ下俘虜ニ對シテハ公正ナル取扱ヲシテキル。尙將校代表ノミニテヨロシキヤ」

ガ「結構ラス。處テ俘虜ガ所長等ニ用件アツテ面會スル場合許可ヲ要スルノカ」

濱田少佐「規定ニヨリ通譯ノ取次ニヨリ收容所長ニ會フコトヲ許シテキル」

ガ「蘭人俘虜ガ瑞典公使館ト通信スルコトハ許サレテキルノカ。コノ場合通信ハ勿論收容所ガ檢閲サレマスカ」

濱田少佐「ソレハ俘虜情報局ヲ通ジテ出來ル。收容所トシテハ情報局ノ許可ヲ得レバ通信ヲ許ス。從ツテ收容所トシテハ原則的ニハ許可

出來ナイガ軍ノ許シガアレバ差支ハナシ

ガ「俘虜ト日本語ニ付テハ如何」

濱田少佐「大體日常的ノ用事ハ日本語ヲ濟マセテキル」

（ブーン中尉登場）

ガ「前ニ「エルクセン」瑞典代表ガ前ニ「マラリヤ」ノ藥ヲ送ツタガ受取リシヤ」

ブ「藥ハ受取リマシタ。併シ充分テハナカツタ。爾時ニ本ヤ「ラヂラ」等モイタマキマシタ」

ガ「「マラリヤ」藥ハマダ必要カ、ソノ程度如何」

ブ「「マラリア」患者ハ相當ニ多ク自分ハ醫者デハナイ故ヨク分ラヌガ出來レバモット藥ヲ頂キタイト思フ」

ガ「其他ニ要求アリヤ」

ブ「ソノ要求トハ收容所一般ニ關シテノコトナリヤ」

ガ「イヤ、和蘭人俘虜ノミニ關シテアル」

ブ「若干アル。先ヅ第一ハ和蘭人ノ大部分ハ蘭印カラ來テキルノデ、



英語ガ分ラズ、ココニハ和蘭語デ書イタ本ガ殆ドナイ。蘭語ノ本ガ讀ミタイ

ガ「蘭語ノ本ハ少々アルガ擲山ハナイ。デハ許可ヲ得テ送り度シ

濱田少佐「内容ハ當方デ檢閲スルカラ送ツテモ差支ヘナシ

ガ「本所ヘ送ルノカソレトモ直接當所ヘ送ツテモヨロシイカ

濱田少佐「本所ノ方ヘ送ラレ度シ檢閲ノ必要ガアルカラ

ガ「ソレデハ蘭俘虜ノ手ニ渡ルマデ時間ガカカルト思フガ如何

濱田少佐「ソノ心配ナシ

ガ「本ヤ「スポーツ」道具ハ單ニ蘭人ノミデナク、收容所全部ニ送ツ

テキルガ運動具等送ツテモヨロシキヤ

濱田少佐「今後ハ當方ヨリモ運動具ヲ與フル心算ナルモ送ツテイタマ

クコトハ何等養支障ナシ。以前ハ場所ガナカツタガ今日デハ大分廣

クナツタカラ運動具ヲ與ヘタイト思ツテキル

ガ「宗教的禮拜ニ付テ如何

濱田少佐「宗教的禮拜ハ許サシテキル。尙今マデハ此點不充分ノ點モ

アツタガ、目下俘虜ノ宗教ニ付テハ調査ヲ進メテキル次第デアル

ガ「（ブーン中尉ニ對シ）何か身内ヨリ手紙ヲ受取リシヤ

ブ「蘭人ニ三人ノモノハ蘭本國ヨリ手紙ヲ受取ツタ。自分モ一通貫ツ

ガタガ他ノアル者ハ二三通貫ツテキル

ガ「手紙ガ着クノニドレ程期間ガカカルカ

ブ「約半年カカル

ガ「他ニ何か要求アリヤ

ブ「食料ニ關シテ話シタキモヨロシキヤ

濱田少佐「待遇ニ關シテノ問題ナル故不可ナリ

ブ「現在脚氣デ苦シンデキルモノガ多イ様ナ關係ト、藥ノコトニ付テ

オ聞キシタイノデアリマスガ

濱田少佐「ソレラノ事ハ後程代表ガ視察ニ廻ラレルカラオ分リニナル

ト思フ

ガ「「エルクソン」氏ガ來訪サレタ後「ブーン」ノコトヲ妻ニ知ラセ

マシタガ其旨本人ニ傳ヘテ宜シキヤ

濱田少佐「ヨロシイ

ブ「ドウモ有難ウゴザイマス

（ブーン中尉退場）

尙瑞典代表（カウエル）收容所巡視中俘虜ヲ相手ニ大要左記ノ如キ  
問答ヲナス

（一）兵舎ニ於テ一俘虜將校ニ對シ

ガ「私ハ瑞典公使館員トシテ和蘭人俘虜ノ爲何カオ役ニ立ツ様ニト  
當所ヘヤツテ來タ者デアル

俘虜將校「有難ウゴザイマス

（二）將校室ニ於テ一俘虜准士官（圖書係）ニ對シ

ガ「本ハ何冊アリヤ

准「二〇〇冊アリマス

ガガ「自由ニ讀ムコトガ出來ルヤ

准「時間ヲ許ス範圍内ニ於テ自由ニ讀メマス

ガ「尙オ送リスル心算ナリ

准「有難ウ

（三）醫務室ニ於テ俘虜軍醫ニ對シ

ガ「ドンナ患者ガキルノカ

軍「脚氣若干、榮養不良患者ハ少ク、脚氣ガ多シ、下痢ハ重症患者

ナシ。自分ハ最近當所ヘ來タ許リデアル。藥ガ欲シイト思ヒマス

ガ「ドンナ藥ガ必要ナノカ、藥ノ目錄ヲ俘虜軍醫ニ書イテ出サセ度

イト思フガ如何

濱田少佐「當方ヨリハ充分藥ヲ支給シテイルカラ其點ハ信賴サレタ

シ。但シ寄贈サルル分ニハ何等差障ナシ

ガ「俘虜軍醫ハ米國ノ藥ニ慣レ日本ノ藥ニハ慣レテ居ラヌ故赤十字

社ノ藥ヲ送リ度シ

濱田少佐「藥品ノ寄贈ハ差支ヘナキモ當方ハ藥ノ給與方ニ就テモ充

分ニ考慮シアリ。

終  
リ

極秘

陸軍

寫

臺憲高第二二七號

赤十字國際委員會駐日代表ノ台灣俘虜收容所

視察狀況ノ件報告

昭和十九年六月十九日

臺灣憲兵隊司令官

憲兵司令官殿

一、一般狀況

臺灣洲俘虜代表一ノ食糧勞働等ノ不滿ヨリ改メテ利益代表ノ  
招致視察ヲ懇ク外特異事象ナシ

萬國赤十字國際委員會駐日代表

瑞西人 サインリツヒ・アルグスト

右者日本赤十字社本部外事課長渥美鐵三ト共ニ五月三十一日  
飛行機ニテ來台 自六月一日  
至六月九日ノ間台灣俘虜收容所四ヶ所ヲ視察  
セルカ俘虜ハ收容所側ヨリ開陳事項ノ一部制限ヲ受ケ一般ニ通信ノ

方ヲ要望スルモノ多ク濠洲俘虜

働ニ對シ不滿ヲ抱キ改メテ利益

特異事象ナシ

二、視察狀況

各地俘虜收容所ニ於テハ各分所長ヨリ代表ニ對シ收容所ノ施設  
俘虜ノ給養衛生事項等説明アリタル後本所及分所長對席ノ  
下ニ予メ人選指名セル俘虜ト駐日代表間ニ通信救恤品等ニ関シ  
別紙ノ如キ要望應答アリタリ

三、俘虜ニ與ヘタル影響

收容俘虜一般ニ赤十字代表ノ來訪ヲ聞知スルヤ各自要望意見  
ヲ陳述スヘク腹案ヲ有シアタルモ收容所側ニ於テ開陳事項ヲ一部  
制限シタルヲ以テ之等ニ関シ不平的言動ヲ洩スモアリタル外特殊事  
象ナシ。主ナル言動左ノ如シ

我々ノ思ツタ儘ノ事ヲ陳述サセテラレト代表モ效果カアルカ

制限サレタカク何ニモナラナイ

(英陸少佐 一)

我々俘虜ト代表ノミ話出來ルモノナラ開キタイ事話シタイ事カ

澤山アルカ立會者カ居テハ仕方ナイ

(英陸少佐 一)

極秘

陸軍

寫

臺憲高第二二七號

赤十字國際委員會駐日代表ノ台湾俘虜收容所

視察狀況ノ件報告

昭和十九年六月十九日

臺灣憲兵隊司令官

憲兵司令官殿

一、一般狀況

臺灣州俘虜代表一ハ食糧労働等ノ不満ヨリ改メテ利益代表ノ  
招致視察ヲ懇タル外特異事象ナシ

萬國赤十字國際委員會駐日代表

瑞西人 サインリツヒ・アルグスト

右者日本赤十字社本部外事課長渥美鐵三ト共ニ五月三十一日  
飛行機ニテ來台<sup>自六月一日</sup>至六月九日ノ間台湾俘虜收容所四ヶ所ヲ視察  
セルカ俘虜ハ收容所側ヨリ開陳事項ノ一部制限ヲ受ケ一般ニ通信ノ  
迅速圓滑化救恤品ノ増加送附方ヲ要望スルモ多ク濠洲俘虜  
代表一ハ高級將校ノ自産自給労働ニ對シ不満ヲ抱キ改メテ利益  
代表ノ招致視察方ヲ懇ハタル外特異事象ナシ

二、視察狀況

各地俘虜收容所ニ於テハ各分所長ヨリ代表ニ對シ收容所ノ施設  
俘虜ノ給養衛生事項等説明アリタル後本所及分所長對席ノ  
下ニ予メ人選指名セル俘虜ト駐日代表間ニ通信救恤品等ニ関シ  
別紙ノ如キ要望望應答アリタリ

三、俘虜ニ與ヘタル影響

收容俘虜一般ニ赤十字代表ノ來訪ヲ聞知スルヤ各自要望意見  
ヲ陳述スヘク腹案ヲ有シアタルモ收容所側ニ於テ開陳事項ヲ一部  
制限シタルヲ以テ之等ニ関シ不平的言動ヲ洩スモアリタル外特殊事  
象ナシ、主ナル言動左ノ如シ

我々ノ思フタ儘ノ事ヲ陳述サセテラレト代表モ效果ガアルカ  
制限サレタカラ何ニモナラナイ

(英陸少佐 一)

我々俘虜ト代表ノミ話オモルモノナラ開キタイ事話シタイ事カ  
澤山アルカ立會者カ居テハ仕方ナイ

(英陸少佐 一)

代表ニ見セルハ收容所ノ良ク處ク見セテ悪ク處ハ見セナイ  
一

代表ハ日本軍ノ手先ト同シテ我々ニ為ニナラナイ

(英陸少将 一)

四、視察代表ノ言動並感想

視察中ニ於ケル代表ノ言動ハ概シテ坦白率直ニシテ終始明朗  
今ク中立國ノ態度ヲ表明シ殊ニ各收容所ノ衛生保健上ノ施設  
完備ニ依リ全般ノ二俘虜ノ体重増加及患者ノ減少農園家  
畜飼育場等ノ諸設備ニ對シ讚辭ヲ呈シ又該代表ノ報告ニ  
斯ル實況ノ寫真ヲ添付セハ一層有効ナル旨ヲ述ヘタル等俘虜ノ  
所過取扱ニ關シ好感ヲ持テ離台セリ

五、處置所見

右代表ノ視察間所在ノ私服憲兵一ヲシテ動靜視察ニ任セシメ  
タル處敘上ノ如ク濠洲俘虜代表一カ勞働食糧等ノ不滿ヨリ

改メテ利益代表ノ招致視察方ヲ懇ヘタル外要注意事象ナシ

(了)

發送先

憲司

Do not Remove!  
Reference page 1

俘虜ノ要望事項並代表トシテナル應答狀況

區分	俘虜ノ要望事項	俘虜名	應	答
	手紙ノ多クハ一年乃至二年經過シテ居ル	米	收容所本所長	
	手紙ノ内容カラ推スト多數ノ手紙ハ發送	ウヰライト	現在運輸困難ナル郵便物	
	サレテ居ルカ受取ツテ居ナイモト迅速ナ	中將	交換船ヲ一時到着シテ而モ手紙	
	配達處置ヲ希望ス		ノ字體カ乱雜ナ爲檢回ニ苦勞	
	個人宛ノ小包ハ一個モ受取ツテ居ナイ英		スル小包ハ到着スレハ直ケニ渡シテ	
	國カラノ手紙ハ概ネ一年乃至二年經過シテ	英	保留シテ居ナイ	
	居ル電報モ五月十日附ノモノヲ十二月三日	ハシバル		
	手入シテ居ル	中將		
	最大関心事ハ郵便ノ問題ヲ和蘭本國カラ	代表		
	時折手紙ヲ接受スルカ蘭印カラノ手紙ハ	蘭	占領地ニ關シテハ自分テハ何トモ出来	
	一向來ナイ、何故通信カ遮断サレテ居カ	ルニホルトケナイ又何ニモ判ラズ將來ハ日本		
	了解ニ苦シム赤十字カ此ノ點ニ付考慮	總督	当局ニ於テ考慮サレト思フ	
	サレシコトヲ切望ス			
	將校ニ對シテハ現在封書ノ發信ヲ認	英		
	メラレテ居ルカ全員ニ之ヲ許可セヨ度	ゴエ大尉	代表本所長ニ對シ	
	赤十字社ハ日本軍ヲ通シテ家族ニ電報		電報ノ發信ハ收容所長カ許可	
	カ打テル様ニシテ戴キ度イ又手紙中ニ		サレハ私ノ方ハ取扱フカ如何	
	打電ノ旨書カレテアルモノカ七名アルカ受	英	本所長	
	取ツタモノハ居ナイ受信シ得ル様又電報	シニアソシ	其ノ必要ナルモノノミニ限リ許可ス	
	發信ノ許可及濠洲俘虜宛手紙ハ	代將		
	非常ニ少ク遅イ故共ニ善處斡旋			
	願度			
	米國赤十字ノ救恤品ハ不充分ヲ例ヘハ	米	代表	
	一人ニ靴下足二人ニ外套一帽子一手袋一	ウヰライト	被服ハ全面品不足、又台湾へ五	
	テアワテ熱地生活ヲシテ比律賓カラ來タ者			

<p>恤 ニ台湾ノ冬ニ適スル衣料ノ持合セカ無イ コトヲ承知願度イ 「タオル」靴下、冬衣等カ必要ナル併シ吾々ニ 食糧品カ第一義ヲ被服其他ニ第二義故 食糧品ノ發送ニ主カヲ注カレ度</p>	<p>品 「タオル」靴下、化粧品等カ未ダ不足ニス又 雨具モ欲シイ</p>	<p>閣 一人一月一個割合ノ食糧小包救恤品ト個人 宛小包二個欲シイ次ニ夏衣及冬衣カ欲シイ 禮拜用ノ葡萄酒「パン」ノ支給方斡旋</p>	<p>係 願度 六ヶ月前赤十字ヨリ「マリア」ノ藥「ア テアリン」ヲ送ツテ戴キ感謝シテ居マス 今後共御願シタイ</p>	<p>利 改メテ利益代表ノ來訪方御願シタイ 我々ノ俘虜ノ身分ヤ自發的勞働 等全般ノ福祉ニ関レ所長、分所長 及利益代表ノ三者立會ノ上色々論議 解決サレルコトヲ望ム、我々ノ中ニハ老 人モ多ク日中働クコトハ非常ニ苦痛 ヲアル</p>	<p>視 占領地ノ抑留者ニ救恤品カ届ケラ レテ居ヌカ ハツケル中將ハ軍人トシテノ俸給モ又 非常軍人トシテ本國カラノ手當ヲ世貫 ツテ居ナイ善處方取計リヲ願フ</p>	<p>察 レテ居ヌカ ハツケル中將ハ軍人トシテノ俸給モ又 非常軍人トシテ本國カラノ手當ヲ世貫 ツテ居ナイ善處方取計リヲ願フ</p>	<p>希 レテ居ヌカ ハツケル中將ハ軍人トシテノ俸給モ又 非常軍人トシテ本國カラノ手當ヲ世貫 ツテ居ナイ善處方取計リヲ願フ</p>	<p>他 レテ居ヌカ ハツケル中將ハ軍人トシテノ俸給モ又 非常軍人トシテ本國カラノ手當ヲ世貫 ツテ居ナイ善處方取計リヲ願フ</p>	<p>總 督 カ目下昭南ヲ基地トシテ食糧品ヲ發 送スル計畫カアル</p>	<p>中 將 百人分シカ送ツテ居ラナイカラ何人 ニツシカ渡ラナイ等ヲ</p>	<p>大 尉 今後ノ救恤品ニツイテハ本國ニ於テ毎 月送附ノ計畫カ樹テラレテ居ルカ輸送 困難ノ折柄何時局々カ保證出來ナイ 代表</p>	<p>米 救恤品ノ内容ニツイテ種々注文カアリシ カ英米共殆ニト同種同量ノ物カ計畫 サレテ居ル等テ現在我々ハ交換船ニ 依ル外別途ノ運送方法ヲ考究 中「アアル」</p>	<p>濠 本所長 一日二時間半位ノ勞働ハ健康上 良イ運動ヲ体カ悪ケルハ無理ニ 作業ニ出ル必要ニナイ</p>	<p>濠 本所長 一日二時間半位ノ勞働ハ健康上 良イ運動ヲ体カ悪ケルハ無理ニ 作業ニ出ル必要ニナイ</p>	<p>濠 本所長 一日二時間半位ノ勞働ハ健康上 良イ運動ヲ体カ悪ケルハ無理ニ 作業ニ出ル必要ニナイ</p>	<p>代 表 非十字代表ハ占領地ニハ行ツテ 居ナイ然レ占領地ト雖モ收容所 ニ送ラレル今日迄</p>	<p>代 表 非十字代表ハ占領地ニハ行ツテ 居ナイ然レ占領地ト雖モ收容所 ニ送ラレル今日迄</p>	<p>代 表 非十字代表ハ占領地ニハ行ツテ 居ナイ然レ占領地ト雖モ收容所 ニ送ラレル今日迄</p>	<p>代 表 非十字代表ハ占領地ニハ行ツテ 居ナイ然レ占領地ト雖モ收容所 ニ送ラレル今日迄</p>
---	--	--	--	---	---	---	---	---	--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---

大俘第八五號

英米利益代表大阪俘虜收容所鳴海分所視察ニ關スル件通牒

昭和十九年五月十二日

大阪俘虜收容所長



# 俘虜情報局長官殿

米英利益代表瑞西國書記官エルウインベルナー氏一行ハ五月六日大阪俘虜收容所鳴海分所ヲ左記要領ニ依リ視察セリ

左記

一 視察日時

五月六日

自〇九一五  
至一二一〇

二 場所

大阪俘虜收容所鳴海分所

(愛知縣愛知郡鳴海町有松裏)

三 參集者

視察者側

米英利益代表瑞西國公使館書記官

エルウイン      ベルナー

瑞西國公使館通譯官

諸      澤      幸      藏

收容所側

所長      陸軍大佐      村      田      宗太郎

所員      陸軍主計中尉      福      永      貞治

        陸軍少尉      宮      武      都夫

        陸軍少尉      山      下      幸

        鳴海分所長      陸軍少尉      田      中      博

通      譯      林      久      吉

陸





陪 列 者

名古屋憲兵隊  
名古屋警察署

四 視察事項

1. 俘虜居住ノ状態
2. 俘虜衣食ニ關スル事項
3. 俘虜ノ保育衛生ニ關スル件
4. 俘虜ノ通信ニ關スル件
5. 酒保日用品ニ就テ
6. 娛樂ニ關スル事項
7. 勞務ニ關スル事項
8. 俘虜代表者ノ希望聽取
9. 其ノ他細部ニ亙リ

五 視察要領

別紙第一「米英利益代表鳴海分所視察計畫」ヲ立案シ時間稍延引<sup>シタル</sup>モ細部ニ亙リテハ計畫通實施シ極メテ順調ニ完了セリ  
 1. 所長ノ概況説明 (自<sup>ハ一五</sup>至<sup>一〇〇</sup>)

所長ハ別紙第二「利益代表鳴海分所視察時ノ説明事項」ニ從ヒ當分所一般ノ状態ニ付詳細説明セリ

(事實ハ相違ナキモ稍々誇張シテ説明セリ)

2. 第四項代表視察事項ニツキ質疑應答セリ

3. 利益代表ヨリ俘虜代表將校、下士官、兵ニ對シ通信、娛樂、

食飼等ニ關シ希望ヲ聽取セリ

4. 俘虜ハ收容所生活ニツキ感謝満足シ何等不平ナキ事ヲ代表ニ

卒直ニ具申セリ

6. 利益代表ハ當分所俘虜取扱ヒニ關シ比較的公正ナル觀察ヲナシ實地ニ俘虜生活ヲ視察シテ満足ノ意ヲ表シ歸還セリ

米英利益代表鳴海分所視察計畫

日 六 月 五									日	
至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	時	
10:00	10:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00		
收容所 萬平ホテル	所 容 収						觀光ホテル 收容所	場 所	實 施 事 項	備 考
歸 會	會議室	收容舍	事務室	右 同	右 同	右 同	會議室	來 所		
	憩	所 内 巡 視	俘虜トノ面談	休 憩	對談並ニ質疑應答	概況 說明	休 憩			
所長以下六名自動車ヲ見送ルモノ		所長以下係將校説明スルモノトス	ライリイ大尉以下五名		所長係將校應答スルモノトス	所長、説明書ニ基キ説明スルモノトス		福永中尉、林通譯自動車ヲ出迎 ヘルモノトス		

(大體・宛内附)

瑞西國公使館書記官エルウインベルナー  
鳴海分所視察時説明事項

昭一九五六

俘虜取扱ニ關シテハ國際條約ニ則リ人道ヲ重ンジ公正合理的ニ實施セリ

當分所ハ鳴海分所ト稱シ愛知縣愛知郡鳴海町有松裏百十四番地ニ位置シ敷地坪七千四百坪、建坪六百坪ニシテ收容俘虜ハ三百九十一名ナリ其ノ國籍別ハ英國三〇九、カナダ四八、ポルトガル二五和蘭五、チエツコ、ロシア、ポーランド、ジャバ各一名ナリ、尙之ヲ階級別ニスレバ大尉一、准尉十、曹長十六、軍曹三五、伍長五六、兵二六、非軍人三名ナリ

俘虜一般ノ狀況ハ漸次我帝國ノ氣候風土ニ馴致シ精氣ヲ回復シ健康狀態佳良ニシテ愉快ナル俘虜生活ヲ營ミツ、アリ  
收容所長ノ方針トシテハ俘虜生活ヲ幸福健全ナラシメ收容所即眞ニ樂シキ家庭ト感ゼシムル様可及的自由ヲ與ヘ慰安娛樂ニ重點ヲ

置キ精神的安逸ト肉体的健康ヲ保持セシメ空虚ナル倦怠感ヲ生ゼシメザル如ク留意シテアリ爲ニ收容以來俘虜ノ体重ハ全員ニ亘リ増加シ最高八疋、最底百六十瓦、平均二百八十瓦ノ増加ヲ示セリ  
以下細部ニ就テ説述スレバ次ノ如シ  
一 被服狀況ニ就テ

被服ハ内地日本軍人ト同一程度ノ冬物ヲ着用シ外套ハ各人ニ完全ニ支給セラレ我國互寒ヲ凌越スルニ支障ナシ  
寢具ハ健康者ニハ平均七枚ヲ患者ニハ別ニ二枚増加貸與ス尙俘虜中ニハ冬服其他ノ被服ヲ携行セリ

二 食ニ就テ

糧食ハ我國軍隊ト同種ノ米、麥ヲ用ヒ糧食ニハパンヲ支給シ其ノ數量ハ帝國軍隊ニ依リ定メラレタル處ニ依テ實施セリ  
以上軍隊ニ於テ給養スル以外ニ牛肉、兎肉、牛骨、兎骨、新鮮ナル野菜、米、干羊、味噌、醬油、ウドン等一人日量三〇〇瓦

ヲ支給シアリ

副食物ハ日本ニ於テモ魚菜ノ名産地濃尾、東海地方ヲ控エ新鮮ナル魚肉、野菜ヲ需メ俘虜自身ニ調理ヲ委シ俘虜ノ嗜好ニ合致シタル食糧ヲ支給シアリ患者特ニビタミン缺乏症ニハ麥ヲ加工シテ粥ヲ作り之ニ適應シタル主食ヲ給シ副食物ハ特ニ調理ニ意ヲ用ヒ滋養アルスープ等ヲ作ラシメテ給養セリ

### 三、居住ニ就テ

當收容所ハ高燥ノ地ニシテ空氣新鮮且ツオゾンノ發生多ク最適ノ健康地ニシテ新ニ建築セルモノナリ尙其ノ状態ハ後刻視察時案内ス

採光、換氣、通風ハ申分ナシ床ハ疊ヲ布キ日本人家屋中ノ中等位ニアリ又入浴設備ハ完備シ一週二回乃至三回入浴セシメ冬ハ室内保温ノ爲煖爐又ハ火鉢ヲ備付アリ醫務室、診斷室、休養室ノ設備ハ完備シアリ特ニ呼吸器疾患患者ノ爲特別室ヲ設ケ特別食

ヲ調理シ此處ニ收容以來頓ニ健康ヲ回復セリ

### 四、俘虜通信ニ就テ

昨年十二月末當收容所ニ收容以來本月第一回ノ通信ヲ完了シ近ク第二回ノ發信ヲ實施スベク準備中ナリ

又收容以來三〇〇通ヲ受信配布セリ

### 五、日用品、物品販賣所ニ就テ

日用品ハ毎月一回其ノ所要額ヲ全部ニ亘リ支給セリ又物品販賣所ニ於テハトマトケチャップ、トマトソース、ソース、煙草、紅茶、菓子、齒磨粉、煙草パイプ等ヲ販賣シアリ

### 六、慰安、娛樂ニ就テ

慰安、娛樂品トシテ、ハーモニカ、ヴァイオリン、卓球、野球用品、フットボール、トランプ、レコード、書籍、將棋等ヲ貸與シ勞役歸所後休日ニ全員ニ實施セシム

七 宗教的催シニ就テ

休勞日午前中及毎夕食後ヨリ俘虜中ノ希望者相集ヒテ實施スル  
樣許可シアリ

八 勞役ニ就テ

勞役時間ハ六時間四十分ニシテ休勞ハ每週一回連續二十四時間  
實施セシム

九 衛生ニ就テ

帝國陸軍々醫定例的ニ廻診スル外邦人醫學博士一名週二回診斷  
シ勞役場所ノ會社内ニハ内科、外科、眼科、齒科ノ専門醫アリ  
テ勞役時間中ニ於テモ治療ヲ許可シアリ亦俘虜側軍醫大尉一名  
ノ外俘虜衛生兵三名ニ診斷治療業務援助セシメツ、アリ  
尙衛生材料ハ豊富ナリ、治療直後ノ患者ハ直ニ普通ノ勞務ニ服  
セシムル事ナク漸進的ニ輕勞務ニ就勞セシメ戰傷患者ハ所内輕  
勤務ニ服セシムル等保育ニハ徹底的ニ意ヲ注ギアリ

防疫施設亦完備シアリ

十 七細部ハ視察時現地ニ於テ説明スベシ

濱田 小宮 保田 櫻井 高田

12

大佐 野 龍 卜 徳 人

首相ノ件別冊ノ通通際ス  
俘虜情報局長官 殿

昭和十九年五月十三日 東京俘虜收容所長

瑞西國公使館員「エルウイン、ベルナート」  
問ノ際ニ於ケル問答事項提出ノ件通牒

第五分所訪

新陽



陸



14

櫻井

瑞西國公使館員「エルウイン・ベルナード」  
第五分所訪問ノ際ニ於ケル問答事項

昭和十九年五月九日  
自一〇、三〇 自一三、三〇  
至一二、三〇 至一六、〇〇

代表側	瑞西國公使館員	エルウイン・ベルナード
收容所側	通 譯	諸 澤 幸 造
分 所	員	濱 田 少 佐
通 譯	所 長	根 本 少 尉
立 會 者	通 譯	栗 山 上 等 兵
陸軍省俘虜情報局事務官		高 田 大 尉
東部軍兵務部囑託		村 松 清 作

一〇、三〇分到着  
「時間ニ遅レマシテ失禮致シマシタ。車ノ都合ガ悪イ爲デス」  
濱田少佐

- 「本日ノ豫定ニ就テ承リ度シ
- 「御豫定テ結構ラス
- 「當地ニハ此ノ分所ノ外モウ一ヶ所アリマスガ其ノ所モ見マスカ
- 「御都合テ見セテ頂キマス
- 「御希望ナレバ見セマス當方ハ差支ナイノデスカラ但シ車ヲ準備スル都合上確實ニ打合セテ置キタイ
- 「旅行テ大變疲勞致シマシタカラ御話ヲ承レバ結構デス當所ト同ジト思ヒマスカラ
- 高田大尉
- 「見ナイテモ宜シイト申シテ居ル、車ノ準備ハ不用ナリ
- ベルナード問（以下同ジ）
- 「全般ニツキ説明願ヒマスカ、各個ノ問題ニ付伺ヒマシヨウカ
- 濱田少佐答（以下「特ニ注記」アルモノヲ除ク）同シ）
- 「質問ヲ願フ差支ヘナキ範圍ニ於テ答ヘル
- 「テハ個々ニ伺ヒマス
- 「承知シマシタドウゾ
- 「當收容所所在地及名稱ハ

「新潟縣新潟市、東京俘虜收容所第五分所

「俘虜ノ連絡係アリヤ、其ノ番ノ氏名ハ

「連絡係アリ、分所長ヨリ説明ス

分所長

「英兵 ランスナリ

⑤「ランスハ日語ヲ話シ得ルニ付連絡係トナシ外ニ將校五名アリ、日直トシテ連絡係ヲ交代服務ス

⑥「俘虜將校ニ面會ヲ許可サル、ヤ

⑦「後テ時間ノ許ス限り取計フ

「當收容所ノ收容能力何名ナリヤ

「六百名ナリ

「當收容所現在員何名ナリヤ

「三五六名ナリ

「國籍別人員ハ

「英二、加奈陀一二五、和蘭一四、米二一五、計三五六名ナリ

「將校、下士官、兵ノ區分ハ

「將校英一、米四計五他ハ准士官以下ナリ下士官以下ハ今記憶シテ居

ナイ

「建物ハ收容ノタメ建築サレシモノナリヤ、敷地坪數及建坪ハ

「然リ、坪數及建坪ハ今明瞭ニ記憶ガナイ

「寢具及日用品ノ支給狀況ハ

「毛布ノ定數五枚ナレド現在六枚支給シアリ（寒地増加）敷布一及枕枕覆共支給シアリ其他患香ニヨリ増加支給シアリ中ニハ毛布八枚支

給シアルモノモアル手拭ハ日用品トシテ支給シアリ四ヶ月ニ一本ノ割ナリ其他石鹼、齒ブラシ、齒磨粉、紙筆記具、用箋等皆電給ナリ

「冬期暖房設備ハドウナツテイマスカ

「暖爐ヲ廊下ニ設備シストーブヲ備ヘアリ

「命令ハ日本語ニテ達スルヤ、英語ニテ達セラルルヤ

「日本語ニテ達シアリ當初ハ通譯ガ通譯ノタガ今デハ日常ノコトハ日本語ヲ解ル様ニナツテ居ル



「ココノ俘虜ハ何レヨリ來タルヤ

「二回最初ハ「香港」後ハ「フリツピン」

「到着時ノ所持私物ハ許可サレアリヤ

「検査ノ結果差支ナキモノハ許可ス當所デハ全部許可セリ

「所持金ノ處置ハ

「規定ニヨリ許可範圍内ノモノハ所持餘剩ハ貯金セシメアリ

「到着ノ旨ヲ發信セシヤ

「逐時送付シツツアリ規定ニ依リ二ケ月ニ一回ヲ許可シアリ詳細ハ四ケ月ニ葉書一、封書一、ヲ出シ得

「將校下士兵同數ナリヤ

「然リ

「慰問品到着セルヤ、個人カ全般カ又何人ヨリ送付サレアリヤ

「個人ニモ何度モアリ、全般ニハ三度アリ個人ノモノハ大体家族カラナリ

「送付先ハ赤十字社カラナリヤ

「然リ

「一人一個ヅ、ナリヤ

「概ネ一人一個（但シ食料）被服ハ梱包ニヨリ全員ニ公平ニ分配セリ

「分所長トノ連絡ハ如何ニシアリヤ、連絡自由ニナシ得ルヤ

「許シアリ、俘虜ハ通譯ヲ介シ申出ヲ許シ差支ヘナキハ直ニ之ヲ許可シアリ

「利益國代表ヨリハ傳言等並ニ傳達セルモ俘虜側ヨリナキハ如何許可サレザルヤ

「本所ニテハ何度モアリ（實施セリ）分所ヨリハ申出ナシ若シアラバ本所ヲ通シ情報局ニ通知スル筈ナリ

「俘虜衛生兵軍醫アリヤ

「軍醫二名（内一名齒科醫）衛生兵モ數名アリ當分所ニハ特ニ優秀ナルモノヲ選ビ派遣シアリ

「牧師アリヤ

「ナシ但シ牧師的ノコトヲナシ得ル者ヲ調査中ナリ

宗教ニモ多宗派アリ其ノ宗教區分ニヨリソノ宗派ニ從ツテ信教ヲ實施セシメタリ目下調査中ナリ

「宗教的ナ行事ヲ行ヒアリヤ

「「クリスマス」當日及四月十六日慰靈祭ヲ實施シアリ、將來數多ク

實施スベク計畫中ナリ

「食料ノ配分ヲ詳細ニ伺ヒタシ

「日本ノ公正ナル取扱ヲ信賴サレ度目下ハ日本兵ト同量ヲ與ヘアリ、

尙食料ニツキテハ特ニ努力シタル所ニシテ當初ハ日本食ニ馴レザル

爲榮養ノ攝取ガ十分ナラズ、與ヘル食ヨリ十分ニ榮養ヲ攝取サセル

様研究中ナリ即チ俘虜ガ戰爭ノタメニ消化機能ヲ害ヒ又氣候風土及

生活特ニ食生活ノ變化ニヨリ不慣ノ日本<sup>的</sup>食物ヲ多量ニ與ヘルコトニ

依リ彼等ノ胃腸ヲ害スルヲ以テ初期ニハ少量次第ニ多量ヲ給スル如

クニ實施シ特ニ調理ニツキテハ其ノ方法ヲ考ヘ努力中ナリ

「食料ニツキ不平ナキヤ

「氣候モヨクナリ、食料ニモ馴レ多量ヲ與フルモ消化ニ堪ヘ得ル様ニ

ナリシタメ四月半ヨリ日本兵ト同量ヲ與フルコトニナリ不平ナシ、

但シ最初ハ不平モ相當アツタ

高田大尉

「俘虜ヲ日本全國ニ分散セシメアリ、其他特種ノ事情アリ新潟ハ名古屋

屋ト同一視スル譯ニハ行カヌ當地ハ食料取得ニ容易ナラザル點アリ

收容所長以下ノ當事者ガ此ノ點努力シ如何ニ改善シ實績ヲ上ケツツ

アルカヲ見テ貰ヒタイ、之レガ爲東京本所トシテハ特ニ本所ノ不便

ヲ忍ビ調理師一ヲ特派シテマデ向上ヲ計リツツアル現狀ヲ理解サレ

タイ

⑥「今ノ榮養調理師ノ件ハ與ヘル量ヲヨリ良ク且ツ多ク美味ク與ヘルタ

メ二月初旬ヨリ岡田榮養調理師ヲコノ地ニ派遣シ向上ヲ期シアリ、

其結果今ハヨクナリツツアリ、後デ現場「炊事」ヲ見ラレレバヨク

解ル、尙炊事當番ハ俘虜ナリ彼等ニ規定ノ量ヲ與ヘテ彼等ヲシテ自

由ニ作ラシメアリ

高田大尉

「配給料ノ數字ハ申シテモヨロシキニ非ラザルヤ當所ノ數量ナラバ後刻示シマシヨウ

「煙草ハ何如程支給サレアルヤ

「將校一日五本、准士官以下四本ヲ標準トシアリ、取得困難ナルタメキザミヲ支給ス、右ハ規定ナレド使用者方ヨリ寄贈サレアルタメ實際ハ規定ヨリ多量ナリ

「集團的食糧ヲ減ズル處罰ナキヤ

「ナシ

「酒保設置シアリヤ、何ヲ販賣シアリヤ

「日用品、化粧品、果物、菓子、香料ヲ販賣ス但シ日用品中買ハナクトモ不自由ナキマデ官給シアリ、石鹼、紙、ハガキ、鉛筆並ニ通信用紙等ハ皆官給ナリ

前ニ申シタ「タオル」ノ如キモ官給シテ居ル但シ洗濯用石鹼ハ現在配給ナク、不足ヲ告ゲアリヤガテ支給サルヲ答ナリ

「酒保ノ販賣價格ハ

「市價ヨリ安イ

「酒保ノ利益金ノ用途ハ

「俘虜ノ慰安、娛樂ニ使用ス、蓄音機、樂器ヲ運動具ヲ準備シアリ

「被服ノ狀況（救恤品ノ）ハ

「一般ニ支給シアリ尙將校ニハ要求ニ應ジ規定ノ價格ニ應シ拂下ル被服先般ノ救恤品ハ公平ニ分配シタ將校ハ私物トナルモ准士官以下ノ被服ハ貸與ノ形式ナリ古クナレバ日本軍用品ト交換ス、消耗品ハ私物品トシテ分配ス

「衛生施設ノ狀況ニツキ伺ヒタシ

「入浴場、診療室、休養室等現場ヲ見ラレヨ

「入浴ハ一週何度ナリヤ

「規定ニハ入浴ハ一週二度ナレド現在ハ一日置キニ實施シアリ、日本軍醫ハ一週二度診断ノ規定ナレド衛生係常時居ル其ノ他俘虜軍醫及衛生兵ハ常時居ル

「重傷、重病者アリヤ病類別ハ

「今マデニ割合ニ多ク脚氣（一番多シ）次ハ呼吸器ノ關係ノモノ次ニ胃腸關係ナリ（消化機能不良ナルモノ、榮養失調症ノ如キ）結極消化ノ機能衰ヘタルモノナリ、脚氣及呼吸器患者モ皆榮養失調ニ因ルモノノ如シ

「死亡者數及其原因ハ

「五二名アリ病名脚氣、肺炎、其他ニシテ中災害ニヨリ八名死亡セルハ遺憾ナリ

「已ムヲ得ナイ事ト思ヒマス。醫療ハ無料カ

「然リ

「齒科ニツキテハ

「勿論無料ナリ、三月末ニ齒科醫到着シソレ以前ハ地方醫ヲ以テ治療セシメアリタリ

「眼鏡ニツキ

「當地ニテハ全く必要ナカリシモ必要ナル場合ハ救恤金ヨリ支拂ヒ一部ヲ本人ヨリ支出セシムルコトアリ

「飲料水ハ如何

「井戸（電力）ノ設備アリ新潟醫大及村松陸病ノ検査ヲ受ク、村松病院ハ末ダ報告ナキモ新潟醫大ヨリ極メテ良好ナル旨回答アリ

「將校ノ給料ハ

「階級ニヨリ日本將校ト同様ナリ而シテ一定ノ金額以上ハ貯金セシメ日本出納官吏之ヲ保管シアリ

「下士官及兵モ同様ナリヤ

「同様ナレド所持金額ニ相違アリ即チ將校五〇圓、士官下士官准二〇圓、兵一〇圓ナリ

「就勞率ハ如何

「働キニ行ク率ハ極メテ悪シ

「氣候ハヨクナリアリヤ

「段々良好ナリツツアル

「体力ハ回復シツツアリヤ

「大部ヨクナツタガ保護シアルモノ多數ナリ速ニ健康ニスルタメ努力中ナリ

「同一場所ニテ集團勞働ナリヤ

「働ク時ハ大体同時同一場所ナレド一團體タルヲ得ス、數團體トナリアリ

「俘虜ノ就勞ハ何人カ決定スルヤ

「軍醫ノ意見ニヨリ分所長決定ス

「俘虜軍醫ノ意見モ許サルルヤ

「俘虜軍醫ノ意見ハ十分考慮ニ入レアリ

「勞務ニ就テ何ツテ宜シキヤ

「差支ナキ範圍デ答ヘル

「作業種類ノ決定ハ

「本人ノ健康ト過去ノ職業ヲ考慮シテソレニ適スル職場ヲ配當スル

「大体機械工業ト港ノ荷物運搬ノ二ツナリ

「就勞時間及一週ノ作業日數ヲ問フ

「概ネ八時間デ勞動ハ一週六日ナリ

「給料ハ支給サレマスカ

「兵ハ一〇錢下士官ハ一五錢ナリ之レハ基本賃金ナリ外ニ成績ヲ考慮シテ若干増給スルコトニナツテイル

高田大尉

「参考迄乍ラ最近多少改正サレル等ニシテ各地毎ニ規定ニヨリ定メテアル之レハ官報ニアルカラ承知サレタイ

「下士官ハ監督ノ如キ地位ニアリヤ

「下士官モ兵モ同様作業シアリ中ニ下士官中其技能ニヨリ監督ノ如キニツキアル者アリ

「將校勞務ハ要求サレアリヤ

「要求シ非ズ

「今マデニ規則ヲ犯シタルモノアリヤ

「賞ヲ與ヘラレタルモノ多數アリ之レ日本側ノ公正ナル取扱ニ満足シアルコトヲ證明スルモノデアアル

「處罰アリヤ

「微罰ハ二回アリ理由ハ食料ヲ盗ミタルモノナリ此ノ種ノ處刑者ハ東京收容所全般ニテ八名ニシテ英米人ノ盗人ノ多キヲ意外ニ思ヒ居ル次第ナリ

但シ分所ノモノハ程度輕キタメ營倉ノ如キ輕キ處分ヲナセルモノナリ  
「俘虜ニ對スル不平アリヤ  
分所長

「別段何モナシ皆良命令ニ服従スル

◎「運動ノタメノ「バイキング」ハ不可ナリヤ

◎「所内ニテ健康増進ノタメ獎勵シアリ仕事ノ往復が大變ニヨム、バイキングノ如キ運動ハ必要ヲ認メナイ

「運動ノタメノ道具ガアルカ

「野球グローブ、ピンボン外追々ト準備スベク努力中ナリ

「國際キリスト青年會ヨリ送付ヲ受ケル希望ナキヤ（運動具ヲ）

「別段ノ希望ナキモ送ツテ下サルナラ辭退セズ

「YMのノ書籍樂器ハイタマキマシタカ

「東京本所ヨリ各分所ニ分配セシモノハ順回シアリ、當分所ノモノモ

何レ交換サルル豫定速キタメ輸送困難ニテ未ダ實施サレテナイ

「映畫ヲ見セルコトナキヤ

「見セタルコトナシ行々々々ハ會社側施設等ヲ利用シ見セルベク計畫シツツアリ、本所ニテハ既に實施シアリ

「ラヂオアリヤ

「アリ

「逃走シタルコトアリヤ

「ナシ

「軍紀ニ關係スル罰ナキヤ

「東京本所ニテハ數名アリ其ノ内八名ハ程度ガ重イノテ軍法會議ニ付キリ、米英ノ盗人多キハ全般ニツキテノ感ナリ、軍法會議ニ於テハ

法法ニ從ヒ何レモ公正ナル判決ヲ與ヘルモノナリ

「點呼ハ何回ナリヤ

「朝夕二回ナリ

「出願希望ハナキヤ

「當分所ニハナキモ本所ニテハ多クアリ

「當分所ノ開設ハ

「昭和十八年八月二十日

「當分所ノ收容

「第一次昭和十八年九月二日香港ヨリ、第二次ハ昭和十八年十月七日比島ヨリ右ノ外ニ本所ヨリ衛生部員等數回ニ亘リ増加シアリ

「長時間ヲ煩シテ色々伺ハシテ頂キマシタコトヲ茲ニ感謝ス

「カヘツテ御疲レデセウ、食事ヲココデ準備致シマス

高田大尉

「一言申シマス

私ハ貴職ノ今回ノ視察ニ立會ヲ命セラレ参リタル者ナリ私ノ印象ニツキ話ス事ガ貴職ノ感想ノ手助ニナルコトト信ズルノデス、現在當分所ノ狀勢ヲ日本全般ト比ベテ考フルコトガ極メテ重要ナリ俘虜ノ分散配置、彼等ニ對シテノ思ヒヤリガ含マレアリソノ土地ノ特質ヲ研究スルコト必要ナリ

例ヘバ當地ハ景色ヨク夏涼シク避暑ニヨロシイコトハ日本文學及詩ニ表レテアル

物ニハ良キト悪シキトアリ生活ノ面ニ於テモ何レモ共通ナリ、アルブスハ冬寒ク人住メヌガ如キデア

當地ハ冬ハ悪ク夏ハ良イ處デアアル戰爭モ共通ナリ、種々ノ狀況ガ各地ニ現レテアル

要スルニ惡條件ヲ克服スル努力ヲ認メ改善サレアル現狀ヲ見ラレ吾々ニ不備ト思ハレル點ヲ告ゲラレ吾々ハ取扱向上ノタメノ資ト致シ度イ、何レ俘虜ヨリ聞カルレバ御解リト思フ、改善スベキ點ハ多クアルコトト思フ此ノ點ハ相互ニ智リ合ヒ相互ニ了解シテ行キ度イベルナート氏ガ御多忙中出張セラレ長時間ニ亘リテ種々ト御覽ナサレタ御努力ヲ感謝ス

以下所内巡視ニ於ケル際ノ問答事項

○「此レ等ノ人達ハ輕症ニ依リ休ンデキル人達ナノデスカ。

○「ソウデス

○「寢テキル人達ハ何デスカ。

○「少シ重イノデ就寢ヲ許可シテアル。天氣ノ良イ時ハ主ニ外デ過ゴ

シテキル。デモ今ハ検査ノ都合ニ依リコウシテキルノデアアル。

○「鶏ヲ見テ一卵ヲ生ミマスカ。

○「一日ニ二三箇ハ生ミマス。

○「入浴場ニキル俘虜ニ向ツテ「オ前ハ床屋カ」俘虜「ハイソウデス」

○「此處ハ入浴場デス。此處ニアル粉ハ入浴ノ際浴槽ニ入レテ使ヒマ

ス。

○「俘虜將校ニ向ヒ「君ハ軍醫デスカ

俘虜「僕ハ軍醫デハアリマセン。

○「此レハ飲料水ノ井戸デ電氣ポンプデ水ガアガツテクル様ニナツテ

キル。水ノ性質ハ大變ニ良イ。

○「コレハ二十四時間經過シタ食物デスカ。

○「此レハ次々ト一日三度變ヘテ行ク。

○「此レハ何ノ菜デスカ。

パンヲ見テ「一食ハドレ位デスカ。

○「患者ニ毎日ヤツテ居ル患者用ノパンデアアル、大体三百グラムデア

リマス。病人以外ノモノニハ一週間ニ一回位アル。

○「コレハ魚デスカ

○「コレハ魚ワシデス。コレハ肉デ大体肉、魚トノ間ニ野菜ヲ入レマス

ス。

○「コレハ一日分ノ俘虜ニ對スル肉デスカ

岡田調理師「一ヶ月大体二百疋ノ肉ヲ使用シマス。一人ニ付一日五〇

グラムノ肉ヲ與ヘテマス。

濱田少佐米高粱ヲ見セテ「一定量ノ米、高粱等ヲ出スト俘虜ハ自分ノ

好ミニヨツテ米、高粱ヲ分ケテ調理シテキル。



濱田少佐「此ノ頃大變胃腸ヲ害シテキルモノガアルノデ斯ウイフ風ニ  
漢方藥ノ「ゲンノシヨウコ」ヲ使ヒ胃腸ヲ調整シテキル。又所長自  
ラ市場デ野菜ハ到底手ニ入ラヌカラ農會ニマテ行ツテ取ツテ來テキ  
ル仕末デアアル。

○「コノ建物ノ中デ暖房ハ何處ニアリマスカ。

分所長「大体コノバラツクニハ四個位デス。

濱田少佐「窓ハ將來ニ重ニスベク考ヘテキル。又冬ニツナヘテ目バリモ  
スル考ヘデアアル。

○「ココノバラツクハ他ノバラツクヨリイ、デスネ。

○「此方ノ方ハ新シイ木ヲ使ツテアリマス。見タ眼モ仲々明ルイ感ジガ  
シマス。コレト同ジヤツガ倒壊シタバラツクデス。

○「ハア、サウデスカ。

理由ハ多分嵐デセウネ。澤山ノ死人ノアツタノハ何時頃デスカ。

○「午前二時頃デス。ソノ時即死八名ト二十二名ノ負傷者ガアツタ。

○「他ノモノハ全部治リマシタカ。

○「完全ニ全部治リマシタ。

濱田少佐「コレハ病人ノ便所デス。コレハ病室デス。コ、ニ立ツテルノ  
ガ軍醫デス。コレハ齒科醫デス。病人ハ大部分大變ヨクナリマシタ  
ガ軍醫デス。コレハ齒科醫デス。病人ハ大部分大變ヨクナリマシタ  
○「以前ハモツト重態ダツタノデスカ。

○「中ニハ重態ナモノモアツタ、十二月、一月ガヒドカツタガ二月頃ヨ  
リ良クナツテ來タ。

○「今日現在病人デネテキルノハ何人デスカ。

○「四十二名デス。

○「患者ノ中デ一番多イ病氣ハ何デスカ。

○「脚氣ガ一番多ク次ガ呼吸器病デス。

○「十分藥品ガアリマスカ。

○「アリマス。

○「ムコレ等ハ看護シテキルノデスカ。

○「衛生兵達デス。

以下ベルナード對俘虜代表者間問答事項

○「諸君ノ國籍ハ

俘「英「スチユワート」軍醫少佐、米「バーカー」大尉加「シエーン」  
並ビニ「ボーズ」兵ナリ

○「所持金ニ就テ問フ

俘「軍票三十圓ヲ香港デ貰ツタガ當收容所ニ來タ時ニ集メタガ今何處  
ニアルノカ分ラナイ

濱田少佐「ソノ金額並ビニ内譯ハ當收容所ニテ出納官吏ガ保管シテ居  
ル

○「手紙ノ送付ニ就テ何カ云フ事ハナイカ。

俘「モット多ク手紙ヲ出シ度イ希望デアル。

○「何回位出シタカ。

俘「ハツキリ分ラナイガ多分三月ニ一度ダツタト思フ。

○「赤十字恤兵慰問品ヲ受取ツタカ

俘「半箱ヅツ三回受取ツタ、ツマリ一箱ヲ三人デ三回受取ツタ、ツマ  
リ一人一箱受取ツテキル

○「手紙ガ家ヨリ何日位掛ツテ着クカ

俘「自分ハ去年ノ五月二十日ニ出シタ便リヲ最近受取ツタ

俘「自分ハ去年ノ七月ニ出シタ便リヲ今受取ツタ

○「當局ト連絡シテ希望ヲ述べルカ?

俘「勿論我々ハ其レニ關シ許可サレテキル

○「何カ食物ニ關シテ云フベキ事ハナイカ

俘「果實ガモット入手出來レバ幸ト思フ、ソレカラモット慰問品ガ頂  
キ度イ

○「然シ果實ニ關シテハ我々モ東京ニ於テヌラ入手ハ容易デナイカラ  
コノ點了解シテ欲シイ

俘「質量共ニ非常ニ改善サレタル事ハ事實ダ

俘「非常ニ良クナツテ來テキル

俘「從ツテ患者モ次第ニソノ數ヲ減ジテキル

○「衣類ノ状態ハ何シナ風ダ

俘「衣類殊ニ就勞班ハ悪イ程度ノモノヲ着テキルト思フ、作業場ニテ  
汚レル關係ト思フ、一般的ニ見テ俘虜ガ寧ろ日本ノ工員ノ衣類ヨ

リ良イモノヲ着用シテキルコトニハ同感デアル

㊦「醫療ト齒科ニ就テ云フコトハナイカ

㊧「大シテ云フコトモナイ、俘虜ハ南國ヨリ急ニ寒國ニ來タ關係上、健康上影響アリト思フ、然シ最モ死亡率ノ多カツタノハ一月二十

六日頃テ現在デハ死亡率モ減少シ一般的ニ向上シツツアルト思フ

㊨「將校ハ衣類ヲ買フコトガ出來ルト云フガ

㊩「私ハ知ラナカツタ

㊪「宗教的儀式ニ就テ

㊫「一度數日前ニ行ハレタ慰靈祭ハ非常ニ喜バシイモノダツタ

㊬「私ハ一般ニ我々俘虜ハフイリツピンニキタ當時ヨリモモツト宗教ニ對シ憧レヲ抱イテキル様ニ思ハレル

㊭「給料ニ就テ將校ハ定額ヲモラツテキルカ

㊮「私ハキチント頂イテキル

㊯「私モ同ジダ

㊰「自分モ兵トシテノ給料ハモラツテキルガ使用法ガナイ

又毎日巻煙草ヲモラツテキナイ、本日マデニ八ヶ月間五個ノ分のリヲ頂イタキリダ

高田大尉「地方ニ依リテ配給制度ハ異ルカラコノ點止ムヲ得ナイ、然シ考慮シテ置ク

㊱「仕事ノ組式ニ就テ

㊲「我々將校ハ仕事ニ行カナイノデ云々スル譯ニハ行カナイ

㊳「何モ不平ヲ云フ事ハナイ

㊴「嚴シクハナシ

㊵「所長殿ガ就任サレテ以來非常ニ改良サレタト思フ

㊶「冬ヲ除イテハ就勞場デモ優遇シテクレルシ何モ不平等ハ云フ事ハ

ナイ

㊷「レインコートヲ支給シテ頂ケレバ仕事モ樂ト思フ

㊸「養ハ非常ニ役立ツテラルト思フ

㊹「何か苦情デモアルカ

㊺「私ハ何モ云フベキ事ハナイ凡テニ於テ物事ハ順調ニ進ンデキル



13

居普通合第三四九號

昭和十九年五月二十三日

俘虜情報局長官 殿

外務次官



在本邦赤十字國際委員會代表ノ東京俘虜收容所附屬病院視察報告書送付ノ件  
本件ニ關スル壽府赤十字國際委員會宛「ベスタロッチ」ノ報告電報御參考迄別紙ノ通譯出送付ス

本信送付先 陸軍次官、海軍次官、俘虜情報局長官

俘①「私モ同感ダ

②「何か慰安ニ就テ云フコトハナイカ

俘③「昔ハ暇ガ有レバ讀書スルナリ、ピンボンナリ何か兎ニ角スル事ニ興味ハ抱キテキル

俘④「我々ハ一週ニ一度ノ休日ハアルガ洗濯等ニ追ハレテ別ニベイスボ  
ール等ヲスル暇ハナイ、然シ讀書ハ大イニシタイモノダ

俘⑤「特ニ探偵小説ガヨイ

⑥「前ニ起ツタ家屋ノ崩壊ニ就テ云フコトハナイカ

俘⑦「別ニ云フコトハナイ

俘⑧「炊事場ノ隣ノバラツクノ屋根ノタイルガトレテキルガ直シテモラ  
イタイモノダ

⑨「色々ト有難ウ諸君ト會見シ得ル機會ヲ與ヘテ下サツタ日本ノ方々  
ニ對シテ禮ヲ述ベテ御別レノ挨拶トスル。

別紙添附

赤十字國際委員會代表「ベスタロッチ」發東京俘虜收容所附屬病院視察報告電譯文

一九四四年四月十五日發

壽府赤十字國際委員會宛第一一五九號

東京俘虜收容所附屬病院ヲ訪問セルカ同所ハ前品川本所ニシテ往電第一八八號ヲ参照アリ度シ

一九四三年八月一日開所

郵便宛先 東京俘虜收容所

收容力 約三百名

司令官 堀庭大佐

現在員 米人一一九名中士官一八名

英人 七五名

和蘭人 二八名

諾威人 一名

外務省

支那人 一名

伊太利人 八名

計 二三二名

右者東京俘虜收容所各分所ヨリ移サレタルモノニシテ移動ハ凡テ俘虜情報局へ通知済ナリ

年齢 最高五四歳最低一九歳平均二七歳

代表者 「エドウィン、カギイ」少佐

「エム、エル、ゴットリーブ」中尉

共ニ米國軍醫ナリ

本代表ハ一九四四年四月十四日島津公爵及秘書同行訪問セリ

一般狀況、内部裝備、衛生施設ニ關シテハ第一八八號参照アリ度シ

病人及附添人ハ「ベラック」五棟ニ分居ス一室一名乃至十九名

若干ノ部屋ニ於テハ石炭「ストーヴ」ヲ使用シ得

適當ナル火災豫防設備アリ

疊ノ上約四十種ノ高サニテ寢台設備アリ、病人ニ對シ毛布六枚増、枕一ヶ、敷布一枚

命令ハ日本語ニテ爲サレ通譯ニ依リ英譯セラル  
現在順序ニ依ラス入浴スルコトヲ得

「クレゾール」及「フォルマリン」消毒行ハル

結核患者ヲ收容セル「バラツク」ノ入口ニハ「クレゾール」入洗面器及靴底消毒用「マツト」アリ

衣類蒸シ盥一個毎週一回使用セラル

食事朝食午前八時、晝食正午、夕食午後六時

肉一日一人當り六六〇瓦、其他ノ食料ノ計算ナク患者ノ容態ニ依リ食事給與セラル

「エキストラミート」、肉汁、肝臟、魚、卵、牛乳、「イースト」、

「ビーニンミルク」、砂糖（全收容所ニ對シ隔日二乃至四

「キロ」）ヲ含ム補足的食餌三千「カロリー」

炊事道具釜三個、俘虜料理人八名中二名ハ専門ノ料理人ナリ  
俘虜外科醫四名ノ指導ニ依ル俘虜醫師及齒科醫約三十名アリ

木張床「バラツク」内手術室ニハ石炭「ストーヴ」使用セラレ手

術台一台備付アリ醫療品室ニハ公平ニ見テ充分ナル日本製醫療品

ノ貯藏アリ帝亞丸ニテ輸送セル藥品ハ未タ使用セラレ居ラス藥局

アリ實驗室ニハ顯微鏡ノ備付アリ診察室ニハ外科用床二台及据付

齒科治療台アリ日本人醫師幹部ニ依リ不斷ノ治療ニ使用セラル

病人名簿ニ依レハ結核三六名、「アミイバ」赤痢（大多數ハ保菌者

ナリ）二三名、腸疾患一八名、脚氣二二名、多發性神經炎九名、流行性感

冒、肺炎二四名、其他四三名

病院開院當時病人名簿ニ依レハ約三百名在リタリ全恢復者ハ原收容

所へ送還セラレタリ

開院以來ノ死亡者肺炎一四名、結核七名、傳染病四名、脚氣三名、

腸疾患一名、計二九名

將校及下士卒ニシテ就働中ノ者ハ給料支給セララルモ患者ニハ支給ナシ

酒保ノ特設ナキモ職員ハ苹果、温州蜜柑、紙巻煙草、化粧用品ノ分配ニ任ス

新教禮拜ナキモ時々日本人牧師ノ英語傳道アリ  
收容所當局立會ノ下ニ俘虜代表ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得

問「赤十字ニ依リ如何ナル救恤品ヲ受領セルヤ」

答「一九四三年「クリスマス」ニ帝亞丸ニ依ル米國赤十字食料品

小包二名ニ對シ一個支給セラレタリ」

問「今後如何ナル赤十字救恤品ヲ緊急ニ必要トスルヤ」

答「凡テノ基礎的食料品、衣類及醫藥ハ日本軍ヨリ支給セララル齒科治療器具ヲ要求ス」(收容所長ハ右命令濟)

問「通信ノ發受如何」

答「二ヶ月ニ一通發信ス無線發電ヲ許可セラレタルモノアリ

外務省

大多數ハ家庭ヨリ通信ヲ受ケタリ最後ノ日附ハ一九四三年九月ナリ一人ニテ手紙二十五通及個人ノ慰問袋ヲ受領セルモノアリ「ゴットリーブ」ハ一九四三年「クリスマス」ニ慰問袋二個及赤十字電報ヲ受領セリ」

收容所長ハ帝亞丸ニ依リ東京收容所へ送付セラレタル赤十字救恤品ニ對シ謝意ヲ表セリ

訪問時間九十分ニ過キサリシ爲報告ハ不完全ナリ

外務省

假譯 (中)

通過番號	種類	發信局名	發信番號	語數	發信日期	受付時刻	經由線名	受信時刻
/	NLT	橫濱	/	/	四月十五日	/	TOKYO	/

發信番號 二一九九  
赤十字國際委員會

赤十字國際委員會 發  
駐日代表部

本文「東京俘虜收容所附屬病院」ハモト品川ニ在リ  
タル本所 事務所 当電報ハ八号參照 開設 五四年八月  
日 郵便宛先ハ東京俘虜收容所 收容可能人員約  
三〇〇、所長ハ酒葉大佐 視察當日人員 米二九  
内 将校 一八 英七五 蘭二六 ハールウエー人 一 支一伊八  
計 全隻轉 俘虜情報局ヨリ通報ス 東京俘虜  
收容所管理員ノ諸收容所ヨリ来ル 最年長者ハ  
五四 最低年者ハ一九 平均ニ七歳 俘虜側代弁者  
ハ、エドウィン・ケーゲー、小佐ト「M.L.コトリブ」中尉 兩名共米國

俘虜情報局  
9.9.9 和  
第 6 號

藤倉 高田 横井 保田 赤倉 廣田 長官

俘虜情報局

人醫師 一九四四年四月十九日。スタグツチ 島津公壽 爵 共ノ  
書記 因併サレ視察ス 内部一般情態 衛生的設備ノ  
点ニ付イテハ 当電報ハハ照会サレ及 患者ノ及 従事員  
ハ 狭小舎五棟ニ起居ス 一室ニ自一至十九名 起居ス  
一部ノ室ニ石灰ストーブアリ 消火器材充分 寢床ハ  
堅イ土地床ヨリ約四〇センチ上ノ 畳ノ上 一人当リ毛布六  
患者ノ人ノ以上 枕一敷布一 命令ハ日本語之ノ  
英語訳ニ依リ以テ格アル通訳アリ 風呂ハ目下 破壊中  
消毒ハクレゾール及フオマリンニ依ル 結核患者ヲ收容  
スアル舎ノ入口ニハ 靴底消毒用トシテクレゾール液入  
般ノ備アリ 一週一及 依類ヲ蒸気消毒ヲ為ス 桶アリ  
食事ハ 朝食八時 晝食十二時 夕食午後六時  
一人一日當リ 食糧ハ 六六〇グラム 其他ノ食物ニ  
関スル 類ノ字ナシ 食物ハ 患者ノ適スル物與ハ



ール追加食物トニテ由ス。胃腸臭卵年乳イースト  
 大豆乳 砂糖(所内隔日消費量自二至四キロ)カリリ五、〇〇〇  
 台所ニ大鍋三個 料理人八名(内倉長孝者二名 医  
 歯治療員四名)係虜医 指導者ニ共ニ五〇名ノ  
 係虜之ニ當ル 舎内 板床上ニ手術室アリ 石灰  
 スト、アアリ。手術台一 治療材貯藏室一 相當量ノ  
 日本薬剤等ノ備アリ(帝要丸便着ノ薬剤未ダ  
 使用開始スラス。 薬局ニ顕微鏡、 診断室ニ寝台  
 二、外科用医療器材 歯科ニ要器材アリ 日本入  
 治療職員常時アリ 患者數左ノ通 結核 三六  
 アミハ性(赤痢?) 一 嘔吐(大多數保菌者) 腸病 一八 脚氣  
 三三 多発性神経炎九 感冒気管支炎二四 其他  
 四五 計一七五 病院當日 患者數約三〇〇 恢復  
 次第 尺々 收容所ニカハサル 病院以來 死亡者

数肺炎ニ由ル者一四 結核七 傳染病四 脚氣三 腸  
 病一 計一九 将卒所内ニ於テ仕事ヲナス者給與ヲ受ケ  
 患者給與支給サレズ 正式ノ酒保トシ 然レ将校ソレ  
 之カレ 卷煙草 化粧品ノ分配ニ當ル 牧師トシ  
 新教礼拝英語ニテ時々日本人牧師施行ス 所當  
 局ノ面前ニ於テ左記ノ質問ヲナスノ許可ヲ得タリ  
 一 現在マテニ将卒救恤品トシテ何ヲ受取ラタルヤ  
 答 帝要丸便ニテクススヌニ又ニ一個ノ食糧小包ヲ受  
 領シタリ

二 同 将來、将卒救恤品トシテ何ガ最ニ要望サルヤ  
 答 之依食薬剤ハ日本軍ヨリ支給ヲ受ケテアリ  
 齒科治療器ヲ欲ス(所長ヨリ之等治療器ハ注之  
 三 同 發受信ニ付テ所見アリヤ  
 答 二月二一回發信出来 ラコオニ依ル通信ノ許

俘虜情報局

可アタリタル者ナリ 大多数ノ者ハ本國ヨリ受信ニ最絡  
 日附ノ五四年九月ノモノヲ受取リタル者モアリ 又ヤ  
 者ハニ五通ノ手紙ヲ受取リタル者モアリ 尚個人答ノ  
 慰問品ヲ包ヲ受領スル者モアリ ゴットリブツハ慰問品  
 包ニ個及昨年赤十字社ヨリクリスマス交換物ヲ受  
 ケタリ  
 帝聖丸便ニテ赤十字社事務收容所宛ニ赤十字交換物品  
 発送アリタルニ対シ長且長感謝ノ意思ヲ表シタリ  
 視察部ニ割當ラシタル時句十九分ノミナリニ為 本報  
 告ハ未完ナリ

INTERNATIONAL RED CROSS COMMITTEE  
JAPAN DELEGATION

ES  
Y.T. 1159

REF. No. 317

NOTE TO HURYOJOHOKYOKU

RE VISIT BY A DELEGATE OF JAPAN DELEGATION OF  
I.R.C.C. TO THE SHINAGAWAPOW HOSPITAL.....:

The Japan Delegation of the I.R.C.C. presents  
its compliments to the Huryojohokyoku and has the  
honour to append for the Huryojohokyoku's perusal  
and records copy of its telegraphic report to the  
International Red Cross Committee in Geneva con-  
cerning the above matter.



11 18, 1944

参考番号 五二七  
赤十字国際委員会駐日代表  
品川信房病院視察、作  
首題、件之同上代表、視察報告  
電報予以予存本部宛、其字予  
情報局通達及記録用トシテ  
許添付スル、光榮ヲ加ヘ候

赤十字国際委員会駐日代表

INTERNATIONAL RED CROSS COMMITTEE  
JAPAN DELEGATION

ES  
Y.T. 1159

REF. No. 317

NOTE TO HURYOJOHOKYOKU  
-----

BY A DELEGATE OF JAPAN DELEGATION OF  
TO THE SHINAGAWAPOW HOSPITAL.....:

an Delegation of the I.R.C.C. presents  
nts to the Huryojohokyoku and has the  
pend for the Huryojohokyoku's perusal  
copy of its telegraphic report to the  
Red Cross Committee in Geneva con-  
e above matter.

Yokohama, April 18, 1944

Encl. as above



Handwritten Japanese text on a folded piece of paper, including the characters "赤十字" (Red Cross) and "報告書" (Report).

15.4.44

Sender: Swiss  
Receiver: "

NLT INTERCROIXROUGE GENEVA

1159 HOSPITAL ATTACHED TO TOKYO POWCAMP FORMERLY  
SHINAGAWA MAINCAMP SEE OUR ONEEIGHTEIGHT OPENED AUGUST  
FIRST ONE NINE FOUR THREE MAILADDRESS TOKYO POWCAMP CAPACITY  
ABOUT THREEHUNDRED COMMANDER COLONEL SAKABA STRENGTH  
ON VISITDAY AMERICANS ONE NINE OF WHICH EIGHTEEN OFFICERS

BRITISH SEVENFIVE DUTCH TWOEIGHT NORWEGIAN ONE CHINESE ONE  
 ITALIANS EIGHT TOTAL TWOTHREETWO ALL MUTATIONS REPORTED IN  
 HURYOJOHOKYOKU ORIGIN FROM VARIOUS CAMPS OF TOKYO POWCAMPGROUP  
 AGE MAXIMUM FIFTYFOUR MINIMUM NINETEEN AVERAGE TWENTYSEVEN  
 REPRESENTATIVES MAJOR EDWIN KAGY LIEUTENANT ML GOTTLIEB  
 BOTH AMERICAN MEDICALDOCTORS VISITED BY PESTALOZZI ACCOMPANIED  
 BY HE PRINCE SHIMADZU AND SECRETARY AIRIL FOURTEENTH  
 ONENINEFOURFOUR GENERAL DESCRIPTION INTERIOR EQUIPMENT SANITARY  
 FACILITIES SEE OUR ONEEIGHTEIGHT PATIENTS AND ATTENDANTS  
 OCCUPY FIVE SEPARATE BARRACKS ONETONINETEEN MEN PERROOM  
 COALSTOVES AVAILABLE IN SOME ROOMS ADEQUATE FIRE PREVENTION  
 MEASURES TAKEN BEDDING ON TATAMI APPROXIMATELY FORTY  
 CENTIMETERS ABOVE HARD MUD GROUND SIX BLANKETS MORE FOR  
 PATIENTS ONE PILLOW ONE SHEET ORDERS GIVEN IN JAPANESE  
 TRANSLATED INTO ENGLISH COMPETENT INTERPRETER AVAILABLE ~~HOT~~  
 BATH AT PRESENT OUTOFORDER DISINFECTION BY CRESOL COMMA  
 FORMALIN IN BARRACKS HOUSING TUBERCULOSIS PATIENTS AT  
 ENTRANCE EACH BARRACK BASIN CONTAINING CRESOL MATS FOR  
 DISINFECTING SOLES ONE TUB FOR STEAMING CLOTHES OPERATED  
 ONCE WEEKLY FOOD BREAKFAST EIGHTAM LUNCH TWELVE DINNER  
 SIXPM BREAD SIXSIXZERO GRAMS PERHEAD PERDAY OTHER FOODSTUFFS  
 NO FIGURES GIVEN DIET ADAPTED TO CONDITION PATIENT  
 ADDITIONAL FOOD INCLUDES EXTRA MEAT BEEFBROTH LIVER TRIPE  
 FISH EGGS MILK YEAST BEANMILK SUGAR BRACKET FORTYFOUR  
 KILOS EVERY OTHERDAY FOR ENTIRE CAMP UNBRACKET THREETHOUSAND  
 CALORIES KITCHEN EQUIPED WITH THREE CALDERONS EIGHT POW  
 COOKS OFWHICH TWO DIETICIANS MEDICAL AND DENTAL PERSONNEL  
 E

APPROXIMATELY THIRTY POW HEADED BY FOUR POW SURGEONS STOP  
 IN BARRACK WITH WOODEN FLOOR ~~OPERATINGROOM~~ WITH COALSTOVE  
 ONE OPERATINGTABLE COMMA MEDICAL SUPPLYSTOREROOM ~~BRACKET~~  
 SEEMED FAIRLY WELL STOCKED WITH JAPANESE MEDICALSUPPLIES  
 UNBRACKET MEDICINES EXTELAMARU NOT YET INUSE PHARMACY  
 LABORATORY WITH MICROSCOPE CONSULTATIONROOM WITH TWO BERTHS  
 SURGICAL AND BASIC DENTAL EQUIPMENT AVAILABLE JAPANESE  
 MEDICALSTAFF IN CONSTANT ATTENDANCE ON SICKLIST THIRTY SIX  
 TUBERCULOSIS ~~TWENTYTHREE~~ TWENTYTHREE AMEBIC CASES BRACKET  
 MOST OF THEM CARRIERS UNBRACKET EIGHTEEN INTESTINAL ~~DISEASE~~  
 DISEASES TWENTYTWO BERIBERI NINE POLINEURITIS TWENTYFOUR  
 INFLUENZA BRONCHITIS FORTYTHREE OTHERS TOTAL ONESEVENFIVE  
 AT HOSPITAL OPENING. SOME THREEHUNDRED ON SICKLIST THOSE  
 RECOVERED SENT BACK ORDINARYCAMPS DEATHS SINCE OPENING  
 HOSPITAL FOURTEEN PNEUMONIA SEVEN TUBERCULOSIS FOUR INFECTIOUS  
 DISEASES THREE BERIBERI ONE INTESTINAL DISEASE TOTAL TWONINE  
 STOP OFFICERS AND RANKS WORKING AT CAMP RECEIVE PAY  
 PATIENTS NO PAY NO PROPER CANTEEN BUT OFFICERS INCHARGE  
 OF DISTRIBUTION APPLES TANGERINES CIGARETTES TOILETARTICLES  
 NO CHAPLAIN PROTESTANT SERVICE SOMETIMES CONDUCTED BY  
 JAPANESE PRIEST INENGLISH STOP WAS PERMITTED BUT FOLLOWING  
 QUESTIONS TO POWREPRESENTATIVES INPRESENCE CAMPAUTHORITIES  
 PRIMO QUOTE WHAT HAVE YOU RECEIVED INTHEWAY OF REDCROSS  
 RELIEFGOODS SOFAR UNQUOTE REPLY ONE AMCROSS FOODPARCEL  
 EXTELAMARU FOR TWOMEN ON CHRISTMAS ONENINEFOURTHREE SECUNDO  
 QUOTE WHAT FUTURE REDCROSS RELIEFGOODS ARE MOST URGENTLY  
 REQUIRED UNQUOTE REPLY ALL ~~BRACKET~~ BASIC FOOD CLOTHING

MEDICINES HAVE BEEN SUPPLIED BY JAPANESE ARMY REQUIRE  
DENTAL EQUIPMENT BRACKET CAMP COMMANDER HAS ALREADY ORDERED  
SAME UNBRACKET TERTIO QUOTE WHAT DO YOU HAVE TO SAY  
IN RECEIVING AND SENDING MAIL UNQUOTE REPLY SENDING ONE  
LETTER EVERY TWO MONTHS SOME WERE PERMITTED SENDING RADIO MESSAGES  
MOST HAVE RECEIVED MAILS FROM HOME LATEST DATED SEPTEMBER  
ONE NINE FOUR THREE ~~XXXXXXXXXX~~ SOME HAVE RECEIVED UP TO  
TWENTY FIVE INDIVIDUAL LETTERS ALSO PRIVATE COMFORT PACKAGES  
GOTTLIEB HAS RECEIVED TWO COMFORT PACKAGES ALSO RED CROSS  
TELEGRAM CHRISTMAS ONE NINE FOUR THREE FULL STOP CAMP COMMANDER  
THANKED FOR RED CROSS RELIEF EXTEI AMARU SENT TO TOKYO CAMP  
FULL STOP REPORT INCOMPLETE OWING TIME ALLOTTED VISIT ~~XXXXXX~~  
~~XXXX~~ NINETY MINUTES ONLY

INTERCROSS



官	務	事							
---	---	---	--	--	--	--	--	--	--



俘普第一一〇號

昭和十九年五月九日

日本赤十字社俘虜救恤委員部委員長 公爵 島津忠

承

俘虜情報局長官 濱田 平 殿

拜啓 赤十字國際委員會駐日代表ヨリ同代表ガ品川俘虜病院視察報告送附越有之候ニ付右寫爲念御參考迄ニ及ビ御送附候

敬具



日本赤十字社



一九四四年四月十八日

第一八八號

橫濱赤十字國際委員會駐日代表

社宛

當代表ニ依ル品川俘虜病院視察ノ件

拜啓 表記ノ件ニ關シジュネーヴ委員會宛電報報告寫實社御檢閱  
ト御記録ノ爲添附仕候

日本赤十字社

COPY

INTERNATIONAL RED CROSS COMMITTEE  
JAPAN DELEGATION

ES  
Y.T. 1159

REF. No. 188

NOTE TO JAPAN RED CROSS SOCIETY  
-----

RE VISIT BY A DELEGATE OF JAPAN DELEGATION  
OF I.R.C.C. TO THE SHINAGAWA POW HOSPITAL:

The Japan Delegation of the I.R.C.C. presents its compliments to the Japan Red Cross Society and has the honour to append for the Japan Red Cross Society's perusal and records copy in duplicate of its telegraphic report to the International Red Cross Committee in Geneva concerning the above matter.

-----  
Yokohama, April 18, 1944

Encl. as above

15.4.44

Sender: Swiss  
Receiver: "

NLT INTERCROIXROUGE GENEVA

1159 HOSPITAL ATTACHED TO TOKYO POWCAMP FORMERLY  
SHINAGAWA MAINCAMP SEE OUR ONEEIGHTEIGHT OPENED AUGUST  
FIRST ONENINETEEN FORTYTHREE MAILADDRESS TOKYO POWCAMP CAPACITY  
ABOUT THREEHUNDRED COMMANDER COLONEL SAKABA STRENGTH  
ON VISITDAY AMERICANS ONEONENINE OFWHICH EIGHTEEN OFFICERS

BRITISH SEVENTYFIVE DUTCH TWENTYEIGHT NORWEGIAN ONE CHINESE ONE  
 ITALIANS EIGHT TOTAL TWENTYTWO ALL MUTATIONS REPORTED IN  
 HURYOJOKYOKU ORIGIN FROM VARIOUS CAMPS OF TOKYO POWCAMPGROUP  
 AGE MAXIMUM FIFTYFOUR MINIMUM NINETEEN AVERAGE TWENTYSEVEN  
 REPRESENTATIVES MAJOR EDWIN KAGY LIEUTENANT ML GOTTlieb  
 BOTH AMERICAN MEDICALDOCTORS VISITED BY PESTALOZZI ACCOMPANIED  
 BY HE PRINCE SHIMADZU AND SECRETARY APRIL FOURTEENTH  
 ONENINEFOURFOUR GENERAL DESCRIPTION INTERIOR EQUIPMENT SANITARY  
 FACILITIES SEE OUR ONEEIGHTEIGHT PATIENTS AND ATTENDANTS  
 OCCUPY FIVE SEPARATE BARRACKS ONETONINETEEN MEN PERROOM  
 COALSTOVES AVAILABLE IN SOME ROOMS ADEQUATE FIRE PREVENTION  
 MEASURES TAKEN BEDDING ON TATAMI APPROXIMATELY FORTY  
 CENTIMETERS ABOVE HARD MUD GROUND SIX BLANKETS MORE FOR  
 PATIENTS ONE PILLOW ONE SHEET ORDERS GIVEN IN JAPANESE  
 TRANSLATED INTO ENGLISH COMPETENT INTERPRETER AVAILABLE  
 BATH AT PRESENT OUTOFORDER DISINFECTION BY CRESOL COMMA  
 FORMALIN IN BARRACKS HOUSING TUBERCULOSIS PATIENTS AT  
 ENTRANCE EACH BARRACK BASIN CONTAINING CRESOL MATS FOR  
 DISINFECTING SOLES ONE TUB FOR STEAMING CLOTHES OPERATED  
 ONCE WEEKLY FOOD BREAKFAST EIGHTAM LUNCH TWELVE DINNER  
 SIXPM BREAD SIXSIXZERO GRAMS PERHEAD PERDAY OTHER FOODSTUFFS  
 NO FIGURES GIVEN DIET ADAPTED TO CONDITION PATIENT  
 ADDITIONAL FOOD INCLUDES EXTRA MEAT BEEFBROTH LIVER TRIPE  
 FISH EGGS MILK YEAST BEANMILK SUGAR BRACKET TWOTOFOUR  
 KILOS EVERY OTHERDAY FOR ENTIRE CAMP UNBRACKET THREEFOUR  
 CALORIES KITCHEN EQUIPED WITH THREE CAULDRONS EIGHT POW  
 COOKS OFWHICH TWO DIERNICHANS MEDICAL AND DENTAL PERSONNEL

APPROXIMATELY THIRTY POW HEADED BY FOUR POW SURGEONS STOP  
 IN BARRACK WITH WOODEN FLOOR OPERATINGROOM WITH COALSTOVE  
 ONE OPERATINGTABLE COMMA MEDICAL SUPPLYSTOREROOM BRACKET  
 SEEMED FAIRLY WELL STOCKED WITH JAPANESE MEDICALSUPPLIES  
 UNBRACKET MEDICINES EXTEIAMARU NOT YET INUSE PHARMACY  
 LABORATORY WITH MICROSCOPE CONSULTATIONROOM WITH TWO BERTHS  
 SURGICAL AND BASIC DENTAL EQUIPMENT AVAILABLE JAPANESE  
 MEDICALSTAFF IN CONSTANT ATTENDANCE ON SICKLIST THIRTY SIX  
 TUBERCULOSIS TWENTYTHREE AMERIC CASES BRACKET  
 MOST OF THEM CARRIERS UNBRACKET EIGHTEEN INTESTINAL DISEASES  
 DISEASES TWENTYTWO BERIBERI NINE POLINEURITIS TWENTYFOUR  
 INFLUENZA BRONCHITIS FORTYTHREE OTHERS TOTAL ONESEVENTYFIVE  
 AT HOSPITAL OPENING SOME THREEHUNDRED ON SICKLIST THOSE  
 RECOVERED SENT BACK ORDINARYCAMPS DEATHS SINCE OPENING  
 HOSPITAL FOURTEEN PNEUMONIA SEVEN TUBERCULOSIS FOUR INFECTIOUS  
 DISEASES THREE BERIBERI ONE INTESTINAL DISEASE TOTAL TWONINE  
 STOP OFFICERS AND RANKS WORKING AT CAMP RECEIVE PAY  
 PATIENTS NO PAY NO PROPER CANTREN BUT OFFICERS INCHARGE  
 OF DISTRIBUTION APPLES TANGERINES CIGARETTES TOILETARTICLES  
 NO CHAFLAIN PROTESTANT SERVICE SOMETIMES CONDUCTED BY  
 JAPANESE PRIEST INENGLISH STOP WAS PERMITTED BUT FOLLOWING  
 QUESTIONS TO POWREPRESENTATIVES INPRESENCE CAMPAUTHORITIES  
 PRIMO QUOTE WHAT HAVE YOU RECEIVED INTHEWAY OF REDCROSS  
 X RELIEFGOODS SOPAR UNQUOTE REPLY ONE AMCROSS FOODPARCEL  
 EXTEIAMARU FOR TWOMEN ON CHRISTMAS ONENINEFOURTHREE SECUNDO  
 QUOTE WHAT FUTURE REDCROSS RELIEFGOODS ARE MOST URGENTLY  
 REQUIRED UNQUOTE REPLY ALL BASIC FOOD CLOTHING

MEDICINES HAVE BEEN SUPPLIED BY JAPANESE ARMY REQUIRE  
 DENTAL EQUIPMENT BRACKET CAMP COMMANDER HAS ALREADY ORDERED  
 SAME UNBRACKET TERTIO QUOTE WHAT DO YOU HAVE TO SAY  
 IN RECEIVING AND SENDING MAIL UNQUOTE REPLY SENDING ONE  
 LETTER EVERY TWO MONTHS SOME WERE PERMITTED SENDING RADIO MESSAGES  
 MOST HAVE RECEIVED MAILS FROM HOME LATEST DATED SEPTEMBER  
 ONE NINE FOUR THREE ~~XXXXXXXXXX~~ SOME HAVE RECEIVED UP TO  
 TWENTY FIVE INDIVIDUAL LETTERS ALSO PRIVATE COMFORT PACKAGES  
 GOTTLIEB HAS RECEIVED TWO COMFORT PACKAGES ALSO RED CROSS  
 TELEGRAM CHRISTMAS ONE NINE FOUR THREE FULL STOP CAMP COMMANDER  
 THANKED FOR RED CROSS RELIEF EXT. I AMARU SENT TO TOKYO CAMP  
 FULL STOP REPORT INCOMPLETE OWING TIME ALLOTTED VISIT ~~MINUTE~~  
 NINE NINETY MINUTES ONLY

INTERCROSS

警

横井

保田

園

濱田

10

善俘庶第三〇號

赤十字國際委員會駐日代表「マックス・ホスタロツゲ」  
善通寺俘虜收容所視察ニ關スル件報

昭和十九年五月四日

善通寺俘虜收容所長

信虜情報局長官殿



瑞西國善俘赤十字國際委員會駐日代表「マックス・ホスタロツゲ」  
日記ニ依リ當收容所ヲ視察セリ。

丸記

昭和十九年四月二十七日

善通寺俘虜收容所第三分所

同

二十八日

善通寺俘虜收容所本所



陸



31



善傳庶第三八三號

赤十字字門際委員會駐日代表「マックス・ハスタロツチ」

善通寺傳虜收容所視察ニ關スル情報送付ノ件

昭和十九年五月四日

善通寺傳虜收容所

傳虜收容所

傳虜情報局御中

瑞西國憲法村赤十字字國際委員會駐日代表「マックス・ハスタロツチ」

善通寺傳虜收容所本社及第三分社視察ニ關スル情報別冊

通一部送付ス





昭和十九年五月一日

瑞西國壽府赤十字國際委員會駐日代表マツクス・ベスタロツヂ  
ノ善通寺俘虜收容所本所及第三分所視察ニ關スル情報

善通寺俘虜收容所



昭和十九年五月一日

瑞西國壽府赤十字國際委員會駐日代表マツクス・ベスタロツヂ  
ノ善通寺俘虜收容所本所及第三分所視察ニ關スル情報

善通寺俘虜收容所

一 第三分所（愛媛縣新居濱市）

駐日代表ハ二十七日午前約一時間第三分所ヲ視察シ俘虜代表將校一、  
下士官一、兵一ト會談セリ

ノ第三分所施設ニ關シテハ敷地ガ鑽石澤ニ依ル埋立ナルヲ以テ塵埃  
ノ多キ點、建物ニ隙間多キ點（冬季寒冷ナラン）ニ關シ改善ヲ希  
望セリ

(イ) 問 收容所ノ取扱ニ關シ希望ハナキヤ

答 俘虜中衛生兵數名アリ一般勞務ニ從事セシメラレアルモ俘  
虜患者ノ看護ニ充當セシメラレ度現状ニ於テハ患者ニ對スル  
看護ノ不足ヲ感シアリ

(ロ) 問 收容所ニ於ケル生活狀況ニ關シ意見アリヤ

答 俘虜一般ニ相當空腹ヲ感シアリ

二 本所（香川縣善通寺町）

駐日代表ハ二十八日午後約二時間本所ヲ視察シ俘虜代表英、米、濠

蘭上級將校（大佐三、大尉一）米下士官三ノ外將校勞務班長濠大尉  
一、其ノ他數名ト會談セリ

ノ本所施設等ニ關シテハ特別ナル希望ナシ  
2. 俘虜代表トノ會談內容

(イ) 問 赤十字救恤品トシテ今迄ニ如何ナルモノヲ受取リタルヤ

答 現在迄二年三ヶ月ノ間ニ各人ニ九個ヲ支給スルニ足ル食料  
慰問箱、少量ノ散荷食料、相當量ノ衣類、若干ノ娛樂品及藥  
品、多量ノ化粧用品、少量ノ煙草、尙最近書籍七〇〇冊、携  
帶用蓄音器二個音盤二百枚、バイオリン一、ギター一、ウク  
レレ二、ハーモニカ數個、我等ハカカル物品ノ記録ハ所有シ  
非ラザルモ此等ハ收容所當事者ノ判斷ニ依リ間斷的ニ交付セ  
ラレタリ

(ロ) 問 赤十字救恤品トシテ將來如何ナルモノヲ最モ希望スルヤ

答 A 藥品ハ當分十分ナリ

B 普通醫療具ハ充分ナルモ齒科醫療具竝ニ資材ヲ送付セラレ  
度

C ヲイタミン錠劑ハ當分充分ナリ

D 食料慰問箱ヲ毎週各人一個支給シ得ル如ク送付セラレ度、  
其ノ他散荷食料品特ニ小麥粉、砂糖（收容所ニ於テハ極小  
量ナル故）ココア、チヨコレイト（收容所ニ於テハ皆無ナ  
ル故）罐詰及乾燥野菜果實、甘味品、バター、粉末ミルク  
コーヒ、チーズ、マカロニ、スパゲツテイ、脂肪、揚物油  
等

E 衣類一 下着類ハ夏冬共ニ不足セリ、靴下、シャツ又ズボン  
モ希望ス、靴ハ目下充分ナルモ數ヶ月後補給ヲ要スヘシ靴  
修繕用品及靴紐ヲ希望ス

f 娛樂用具一 トランプ、音盤及針、書籍、樂譜（娛樂用竝ニ  
宗教用）卓球ボール、バドミントン用具

3.

問 郵便ノ受領發送ニ關シテハ如何

答 郵便ノ受領ハ度數少ク且ツ大ナル遲延ヲ見ツツアリ、現

在郵便ハ受領發送共ニ本收容所内ニ於ケル取扱ニ關シテハ滿  
足シアルモ日本國內ノ他所ニ於テ輸送分配ニ遲延スルニ非ズ  
ヤト思ハル、多量ノ郵便ガ日本國內ニ於テ長期間遲延セシメ  
ラレアリト信ゼザルヲ得ズ、二ケ年ヲ越エル俘虜生活ニ於テ  
一通ノ通信ヲモ受ケザルモノ若干アリ  
郵便發送ニ關シテハ一年間ニ發送シ得ル數トシテ

將校 封書三（二百五十語）

葉書三（五十語）

下士官 封書二

葉書二

兵 封書二

葉書一

ト規定セラレアリ

終後

4

和蘭俘虜ハ事實上「ジャワ」ヨリ通信ナク心痛シアリ又「ジャワ」ヘ  
ノ送金許可ヲ希望シアリ

問 收容所ニ於ケル取扱竝ニ生活狀況ニ關シ意見アリヤ  
答 概シテ満足シアリ特ニ近來改善セラレタリ然レドモ將校俘

虜トシテノ待遇標準ニ達セザル點多シ、不愉快ニシテ而モ不  
必要ナル干渉事項多シ、階級ノ如何ヲ問ハズ俘虜ハ日本將校  
ニ敬禮ヲ要求セラルル等一壽府條約ニ反ス一ハ其ノ一例ナリ  
或ル場合俘虜將校ニシテ日本軍下士官ニ敬意ヲ表スル事ヲ要  
求セラルル場合アリ又將校モ收容所建物土地ノ清掃ヲ要求セ  
ラレ最近ハ將校當番ノ使用ヲ許サレ非ズ  
生活狀況ニ關シテ一概シテ満足シアリ但シ一室ノ定員多キニ  
過グ、暖房ナク冬季ハ非常ニ寒シ一而モ晝間毛布ノ使用ヲ許  
可セラレ非ズ一藁蒲團ノ數不足シアル爲一部ハ藁ムシロ上ニ  
就寢ス、食事ハ量ニ於テ不足シ空腹ヲ充満シ得ザル事アリ、



尙脂肪竝ニ蛋白質ニ於テ不足ス「パン」ハ最近皆無トナリ小  
麥粉砂糖モ不十分ナリ

一般的感想

多量ノ煙草ヲ希望スルモ輸送ニ制限アル場合ハ先ヅ食料品ヲ希望ス  
小包ヲ發送セリトノ通信ヲ受ケ未ダ小包ヲ受領セザル者多シ一註右  
ニ關シテハ別ニ赤十字宛通報シアリ、駐日代表モ調査中ト答フ一文  
房具、ノートブック、圖書修繕用ノ糊モ希望ス、眼鏡ヲ要スルモノ  
相當アルモ検査ノ設備施設ナク又處方ニ應ズル眼鏡ヲ得難シ  
赤十字救恤品タル藥品ヲ俘虜軍醫ノ要求ニ應シ交付セラレ  
望ム、目下右ハ許容セラレ非ズ其ノ交付ハ多クノ場合不充分ナリ、  
義齒等ノ爲地方齒科醫ニ就クヲ許可セラレ度又糖尿病患者アリ「イ  
ンシュリン」ノ寄贈ヲ望ム（以上書面ノ形式）

駐日代表ト俘虜代表トノ間ニ右書面ニ依ル希望事項ニ關シ若干ノ質疑  
應答アリタル後、英代表（ゴードン海軍大佐）ヨリ「ニュージランド

人三名ハ非軍人ナルヲ以テ俘虜タル身分ヨリ解放セラレ度」旨ヲ述ヘ  
駐日代表ハ「右ハ利益代表國ノ取扱フヘキ事項ナリ」ト答フ。尙英代  
表ヨリ「當收容所ニ關セザル事ナルモ他ノ收容所ニ於テ」ト發  
言アリタルモ、當收容所俘虜代表タルノ權限外ニ逸セントスルモノナ  
ルヲ以テ陳述ヲ禁止セリ（後ニテ調査セルニ東京俘虜收容所第一、第  
二分所ニ於テ英國高等船員ガ下士官、兵ノ待遇ヲ受ケ勞務ヲ強制セラ  
レアリト述ヘントセシモノ）  
米代表（ラインベリ―海軍軍醫大佐）ヨリ「赤十字救恤品ノ在庫餘裕  
アリヤ」ト問ヒ駐日代表ハ「ナシ」ト答フ  
蘭代表（ウエイズ海軍大尉）ハ「蘭軍醫若干名アリ、交換船ニテ歸國  
セシメラレタシ」ト述ブ、駐日代表ハ「利益代表國ノ取扱フヘキ事項  
ナリ」ト答フ

長官

西

保

粉

臺件外第二〇號

赤十字國際委員會駐日代表ノ臺灣俘虜收容所視察ニ關スル件通報

昭和十九年六月十五日

臺灣俘虜收容所長

伴虜管理部長 殿

陸軍省電第三八號ニ係ヘル首題ノ件視察完了セルニ付要旨左記ノ通り  
通報ス

左記

一 視察場所及日程

14

第一分所ヲ除ク全本分所ヲ視察セシム

但シ第二分所ハ六月九日ノ視察當日豪雨出水ノ爲分所上手約三百米ノ烏溪堤防缺潰ノ危険ニ瀕シ全俘虜ヲ附近萬斗六國民學校へ緊急避難セシメタルニ付視察ヲ中止セシメ分所長ヨリ狀況説明竝ニ俘虜ノ

老田

陸



希望事項ヲ傳達セシメタリ

日程左ノ如シ（詳細ハ別紙第一日程表参照）

六月一日 本所

二日 第五、第六分所

四日 第三分所

六日 第四分所

九日 第二分所

ニ立會、誘導

ノ小職ハ本所ニ於テ全般的説明ヲ行ヒタル上第四、第五、第六分所  
視察ニ立會ス

2 誘導ノ爲本所桑原中尉、村上通譯官ヲ同行セシム

3 收容所視察以外ノ接件ノ爲總督府外事部員一名案内ス

4 本所ニ於ケル小職説明事項並ニ赤十字代表ヨリノ質問ニ對スル回

答書別紙第二、第三ノ如シ

Do not Remove!

Reference page 2

陸軍

要領地帯ヲ理由トシ觀察セシメズ、赤十字代表ヨリノ  
 對スル回答並ニ件屬ヨリ赤十字代表ニ對スル希望事項  
 勞役ハ觀察セシメズ  
 扱ハ別紙第四各分所長宛赤十字代表觀察ニ關スル件通  
 一寫ノ如シ  
 トノ對談中主要事項

將

米國人ニ就テハ期待シ得ル最上ノ生活ヲシテ居ル食事  
 ハ大体ニ於テ満足サレルカ、モツト砂糖ト果物トヲ載ケレバ結  
 構デアール

「米國赤十字社ノ救恤品カ不充分ダトイフ例トシテ一人ニ靴下一

取 締

1 第一分所へ要領地帯ヲ理由トシ觀察セシメズ、赤十字代表ヨリノ  
質問事項ニ對スル回答位ニ件屬ヨリ赤十字代表ニ對スル希望事項  
ヲ傳達ス

2 農耕以外ノ勞役へ觀察セシメス

3 其他細部取扱へ別紙第四各分所長宛赤十字代表觀察ニ關スル件通  
牒（第三報）寫ノ如シ

4 職員位ニ件屬トノ對談中主要事項  
ノ於第五分所

ウエンライト中將

「收容所ノ米國人ニ就テハ期待シ得ル最上ノ生活ヲシテ居ル食事  
ハ大体ニ於テ満足サレルカ、モツト砂糖ト果物トヲ賦ケレバ結  
構デアアル」

「米國赤十字社ノ救恤品カ不充分ダトイフ例トシテ一人ニ靴下一

足、二人ニ付外裘一、帽子一、手袋一テアツテ熱地生活ヲシテ  
ヒリツピンカラ乗タ者ニハ臺灣ノ多ニ適スル衣料ノ持合セカ無イ  
コトヲ御承知願度イ」

「コノ數ヶ月以來手紙カ到着シテキルカ多クハ一年又ハ二年經過  
シタモノデアアル、手紙ノ内容カラ推スト多數ノ手紙ハ發送サレ  
テ居ルカ受取テキナイ、モツト迅速ナ配達處置ヲ希望スル」  
英バーンバル中將

「個人宛ノ小包ハ一個モ受取テキナイ、英國カラノ手紙ハ概ネ一  
年カラ一年半經過シテキル、電報モ五月十一日附ノモノヲ十二  
月三十一日入手シテキル又シンガポールニ妻ノ居ル二名ハ未ダ普  
通ノ郵便物ヲ受取ツテキナイ」

「御覽ノ通收容所構内ハ狭イノデモツト戶外運動ヲ實施シテモラ  
ビ度イ」

「新聞ハ一乃至三ヶ月經過シタモノカ交付サレル、ニユースヲモ

「ツト早ク知り度イ」

蘭スタルケンボルク總督

「バツケル中將ハ軍人トシテノ俸給モ又非軍人トシテ本國政府カラノ手當モ貰ツテキナイ、何トカ早ク御處置ヲ願フ」

「我々トシテ最大關心事ハ郵便ノ問題ヲ和蘭本國カラハ時折手紙ヲ接受スルガ蘭印カラノ手紙ハ一向ニ來ナイ、私共ノ妻子ハ抑留所ニ居ルト承知シテキルカ狀況不明ニテ何故ニ通信カ遮斷サレテキルカ了解ニ苦シム、妻子側カラモ通信ヲ熱望シテキルコトト思フ、赤十字社カ此ノ點ニ付考慮サレンコトヲ切望スル」

所 長「手紙ノ遅イコト及個人宛小包カ届カナイ譯ヲトウ思ツテキルカ」

パーシバル「郵便物ノ仕分及檢閲等ノ爲遅イト思フ」  
所 長「現在テハ運輸トイフコトガ非常ニ困難デアル、又郵便物ハ交換船等デ一時ニ到着シ而モ手紙ノ字体ガ亂雜ナ



爲檢閲ニ苦勞スル、小包ハ到着スレバ直チニ渡ダシテ  
キルガ現在ヘ一ツモ無イ

「パトシバル」手紙ノ仕分檢閲ノ人員ヲ増加セラレ度イ、其ノ謝禮ハ  
自分送カ出シテ差支ヘ無イ

所 長「ソシナ事ヘコツチデヤル、心配スルナ」

「スタルケンボルク」手紙カ通イトイフコトハ問題デハナイ、手紙ノ来ナイ  
コトガ問題ダ、去年エリツクソン氏カ来ラレタ時ニ約束  
モアツタカ何卒米ル様御盡力願度イ

代 表「門ヲ出ル際スタルケンボルクヨリ再度ノ右願ニ對シ」  
「占領地ニ關シテ自分デハ何トモナラス又何ニモ分リマ  
セン」

「スタルケンボルク」占領地ノ抑留者ニ救恤品カ届ケラレテキマスカ

代 表「種々難點カアリ赤十字代表ヘ占領地ニハ行ツテキナイ  
然シ占領地ト雖モ收容所ノアル處ニハ救恤品ハ送ラレ

代表 法政

三島

三島

三島

テキル、目下船中ヲ基地トシテ食糧品ヲ届ケル計畫ハ

アルカ今日迄占领地ノ抑留者ハ救恤サレテキナイ

長「皆家族ノ事ヲ氣遣ツテアリ自分モ同情シテキルカ抑留

家族ニ就テハ更ニ心配スルコトハ無い

ウエンライト「日米交換船ハソノ後トウナツテキルカ」

代 表「第三回ノコトニツイテハ未ダ關知シナイ」

代 表「被服ノ不足ニツイテ今回被服ハ品不足ノ爲ニ臺灣へ五

百人分シカ送ツテオフナイカラ何人ニ一ツシカ渡ラナ

イ答ダ」

2 於第六分版

英ギボンス大尉

「當初ハ快適ナ生活ヲ望ムコトハ到底出来ナカツタガ近來ハ満足

スヘキ状態ニアリ私共ノ福利増進ニ關スル希望ハ克ク容レラレ

テキル」

「タオル、靴下、冬衣等が必要である、シカシ吾々ニトリ食糧品  
が第一義ヲ被服其ニハ第二義故其糧品ノ發送ニ主力ヲ注カレ度  
イ」

英ビュート大尉（軍信）

「將校ニ對シテハ現在封書ノ發信ヲ認メラレテキルカ全員ニ之ヲ  
許可セラレ度キモノデアール」

於第三分所

代表（挨拶）

「赤十字ノ目的ハ御承知ノ通傷病者ノ治療、慰問ニ當ルト共ニ各  
國ニ於テ俘虜並ニ抑留者ノ衛生、救恤、通信ノ便宜ヲ圖リ是ガ爲  
ニ年一四日本各地俘虜收容所ヲ視察シテ居リマス  
本日ノ面談視察ノ狀況ハ直チニ、ゼネラルニ報告シ皆様ノ希望ハ可  
及的速カニ實現セラレル様取運フ心算デアリマス」

英レンドル中佐

「第一回救恤品ト第二回目トノ間ニハ十四ヶ月経過シテアリマス  
モツト定期的ニ早ク到着スル如ク斡旋ヲタノミマス、是カ實現  
セネバ貴下ニ會フ意義ハアリマセン」

濠オードホル軍醫大尉

「富分所ノ主ナル病氣ハ「マラリア」デス六ヶ月前赤十字ヨリ「ア  
チプリン」ヲ送ツテ賦中深ク感謝シマス今後共願度」

米スコリー大尉

「タオル、靴下、化粧品等カ未ダ不足デス又豪雨がアリマスノデ  
雨具ヲ御願シ度イ」

蘭陸兵フアンデルデン

「私ハ爪哇カラノ通信カ赤十字扱デアルカ日本軍扱ニナツテキル  
カ致ヘテ頂キ度、赤十字代表ヨリ爪哇カラノ通信ヲ促進スル様  
御盡力願ヘマセンカ」

代表

「救恤品へ東京で受取々總量が少ナイノで行キ直ラヌコトハ止ム  
ヲ得ナイ今後ノ救恤品ニツイテハ本國ニ於テ毎月送附ノ計畫ガ  
樹テラレテ居ルカ輸送困難ノ折柄何時届クトイフ事ハ保證出來  
マセン」

「郵便物へ交換船ノイナラズ「シベリア」鐵道モ利用シ得ル故便船  
ノ無イ場合デモ總量ヌルコトハナイ」

「爪哇ヨリノ郵便へ日本軍當局ノ取扱ニ係ヘルモノテ自分トシテ  
詳シイ事情ハ分リマセン」

英モファット少佐（但シ代表退所後）

「アンナ野郎ニ慰問サレルトハ落ブレタモノダ」

英グランド大尉

「アイスクリーム、アモ注文シタヲヨカッタ」

於第四分所

米ビービー代將

「昨年ノ救恤品ハ一人ニ二、五箱ノ割合デアツタト記憶シテキル  
カ今回ハ一人ニ付一箱半デ前同ニ比シ少ナカッタ、吾々カ特ニ  
御願シ度イコトハ一人一ヶ月一個ノ割合ノ食糧小包救恤品ト個  
人宛小包一個カ必要アル即吾々ハ食習慣上肉、蛋白質ト云フ  
様ナ物カ足りナイデアリマス、次ニ暑イ時ノ下着ニスル様ナ  
モノ寒イ時ノ寒サヲ夜ダ様ナモノヲ送ツテ欲シイト思ヒマス」

英シンブソン代將

日本軍  
ト接洽中



「赤十字社或ハ日本軍ヲ通シテ家族ニ電報ガ打アル様ニシテ或キ  
度イ、又手紙ノ中ニ電報ヲ打ツタ旨書カレテアルモノガ七名ア  
ルガ受取テキナイ、受取レル様轉旋願度」

「爪哇、マレー、比律賓等日本軍占領地内ノ家族ト定期的且迅速ナ  
ル交信及送金ヲ轉旋願度」

「濠洲俘虜宛ノ手紙ハ非常ニ少ナク又非常ニ遅イ故早ク廻送サレ  
ル様轉旋願度」

蘭レカンド大佐

「現地アル蘭家族ヨリノ手紙ハ馬米語デ書カレテキルガ馬米語デ

ハ眞意ヲ盡シ得ナイノデ英語カ和蘭語デ書カセル様御願致度」

「禮拜用ノ葡萄酒ヤ「パン」ヲ支給サレマス様御祈旋願マス」

源キヤラガン代將

「利益代表ノ速カナル來訪ヲ御願シタイ、吾々ノ存廢ノ身分トイ  
フモノヤ自發的勞働等存廢全般ノ福祉ニ關シ所長、分所長トノ  
間ニ完全ナル了解ヲ得テモラヒ度ク思フ」

所長

「利益代表ニ早ク來テモラヒタイト言ツテキルガ代表ガ來ホヘ解  
決出來ナイトイフノカ、存廢全般ノ福祉ト言ツタガソレヘドウ  
イフ意味カ」

キヤラガン

「私ハ所長並ニ分所長ト利益代表ガ立會ノ上自產自給ノ勞働問題

収束  
別途  
了



陸軍

ニ就テ色々ノ論議ガ解決サレ完全ナ了解ガ成立スルコトヲ望ム  
ノテ吾々ノ中ニハ老人モ多ク日中働クコトハ非常ニ苦痛デアリ  
全般ノ福祉トイフノハ吾々ノ其儘ト健康ノ福祉ヲ言フノデアリ  
マス」

所長

「一体自産自給ノ爲ニ毎日何時間働イテキルカ」

キヤラガシ

「一日二時間半デス」

所長

「一日二時間半位ノ労働ハ身体ノ爲ニモ實ニヨイ運動ダ、体ガ悪  
ケレバ無理ニ作業ニ出ルコトハナイ」

代表

「電報ノコトデスカ所長殿ノ御許シガアレハ赤十字社ヲ取計ヒシ  
ヨウト思ヒマスガ」



所長  
「件数が多いノデー々取上ケテハ困ルト思フ、一ヶ月ドレ位扱へ  
ル見込カ」

代表

「二〇一三〇通位」

所長

「條件ヲツケテドウシテモ電報ヲ打タネバナラヌモノニ許可スル  
様ニシナケレバナラヌト思フ」

代表「然リ」

代表

「救恤品ニ就テ交換船便ガ今ノ所何時米ルカトイフ事ハ保證出来  
カネマス又救恤品ノ内容ニツイテ種々ト不足ツイハレマシタカ  
英米共殆ンド同種同量ノ物ガ計畫サレテキル筈デ現在吾々ハ別  
途ノ運送方法ニツイテモ考究中デアリマス、關印トノ交信問題  
ハ目下ノ處不可能デアリマスガ將來ハ何ラカノ方法デ日本當局

ニ於テ考ヘラレルト思ヒマス」

所長

「救恤品ニ關シ不足ヲイフモノガ多イガ非常ナ苦勞ヲシテ送々運  
ンデ來タ品物ニ先ツ感謝ノ念ヲ抱クノカ當然ダ」

註第一、第二分所へ觀察セス

見

ノ觀察中ニ於ケル代表ノ態度、言動等ハ淡白ニシテ不明朗ナルモノ  
ヲ認メズ第四分所ニ於ケル利益代表招致希望、第二分所觀察中止  
ノ如キ問題ニ對シテモ何等惡意の解釋セル傾向無ク、各分所ノ明  
ルキ施設、体重増加、患者減少、農園家畜飼育場等ニ對シ讀辭ヲ  
呈シ又報告ニ斯カル寫眞ヲ添附セバ有効ナル旨ヲ強調シアリタル  
ヨリシテ概ネ好感ヲ以テ觀察ヲ了セリト認メラル

2 件房側モ代表ニ對シ大ナル尊敬モ期待モ拂ヒアラス、希望ハ殆ド  
通信ノ迅速、救恤品（食糧及下着、靴下、タオル、冬衣等ノ被服）問題ニ一

知カレ  
目下  
ト移

致シ特ニ救恤品ニ關シテハ俘虜ニ分配直後ニテ感謝ヨリ不足ヲ訴  
フルモノ多ク却テ代表ヨリ衣服ノ如キ五百人分シカ臺灣ニ割當テ  
アラズ不足ハ當然ナリト逆襲シ又一ヶ月一人一個ノ救恤品ト個人  
宛小包ヲ與望シアル如キ俘虜ノ身分モ忘レ好イ氣ナモノダトノ感  
ヲ抱ケル等逆効果ヲ來タセルハ好都合ナリキ

3 防諜ニ關シテハ特ニ留意シ憲兵隊、高等警察ト協力嚴ニ監視シア  
リタルモ斯ナル關心ヲ表ハセル點無ク特記スヘキモノ無シ

現地抑留家族トノ交信問題、赤十字經由俘虜ノ發電ハ當收容所ト  
シテハ未ダ許可シアラザルモ中央ニ於テ全般的情勢ヨリ研究指示  
相成度希望ス

第四分所ニ於ケル利益代表招致問題即高級將校ノ自產自給勞動問  
題ニ關シテハ戰況好轉自負、臺灣的增長ノ表現ト認ムル勇氣感  
得セラルルニ付徹底的解決ヲ期シアリ、別途報告セントス

6 帝亞丸救恤品中一部香港向品混入ニ關シテハ俘虜情報局ヨリノ指



承通り代表ト協議シソノ儘受領ヲ最善トスルニ意見一致シ送状ヲ  
訂正セシメタリ

7本代表ヘ克ク日本ニ馴染ミ單ニ物質的歐米式批判ノ域ヲ超エ日本  
人ノ氣持ヲ解シ得ル適當ナル代表ナル如ク感得セリ

赤十字國際委員會駐日代表ノ臺灣俘虜收容所視察日程

第二						第一			次日
一月六						(水)日一十三月五			日月
一〇三〇	一〇三〇	一〇二〇	一〇一五	一〇〇五	一〇〇〇	一四三〇	一四二〇	一四〇〇	時刻
日本赤十字臺灣支 部着	同	軍司令部着	同	總督官邸着	鐵道ホテル着	鐵道ホテル着	同	臺北飛行場着	視察個所
動				自		車	動	自	車 分輛
						鐵道ホテル			宿泊
									出迎 收容所、外事部、日 赤係員 摘 要

日 三 第							日						
(金) 日 二 月 六							(木) 日						
一六三〇	一六一五	一四一五	一四〇〇	一一四〇	一一二〇	九二〇	九〇〇	一五二〇	一五一〇	一四一〇	一四〇〇	一〇五〇	一〇四五
鐵道ホテル着	同	第六分所(天直)着	同	鐵道ホテル着	同	第五分所(木柵)着	鐵道ホテル着	鐵道ホテル着	同	同	同	鐵道ホテル着	同
車 動 自							車						
							鐵道ホテル						

第 六	第 五 日 (日)	第 四 日 (土)
九三〇 九三四	九〇〇 九〇五 九一五 九四五	九一五 九二〇 九二五 一八二五 一八三五
山陽ホテル 屏東驛	山陽ホテル 同 第三分所	鐵道ホテル 臺北驛 屏東驛 山陽ホテル
自動車	自動車	自動車 汽車
	山陽ホテル	山陽ホテル
屏東、臺南間一等車連絡	蕃屋見學	高雄、屏東間一等車連絡

陸軍





九 第	日 八 第					日							
八月六	(水) 日 七 月 六					(火) 日 六							
一四 五〇	九三〇	一五 一〇	一五 〇〇	八三 四	八二 〇	八一 〇	一七 二〇	一六 四〇	一四 四〇	一四 〇〇	一一 三〇	一一 二〇	一一 一〇
嘉 義 驛 着	阿 里 山 驛 着	協 會 ホ テ ル 着	阿 里 山 驛 着	同 着	嘉 義 驛 着	福 喜 着	福 喜 着	同 着	第 四 分 所 着	同 着	福 喜 着	同 着	市 役 所 着
自 動 車	汽 車												
		阿 里 山 國 立 公 園 協 會 ホ テ ル					福 喜						

陸  
軍

日	第十日											日	
(金)	日	九	月	六	第	六	月	九	日	十	日	(木)日	
一七三〇	一七〇〇	一五〇〇	一四三〇	一四二〇	一四一五	一四〇五	一四〇〇	一二四五	一二三五	九三三	九二五	九一五	一五〇〇
千代ノ家着	同	第二分所着	同	市役所着	同	知事官邸着	同	千代ノ家着	臺中驛着	同	嘉義驛着	福喜驛着	福喜着
									自動車	汽車	自動車		
千代ノ家													福喜
											一等車連絡		農事試験場見學

第十日					第十二日					第十一日					
十月六日					(日)月一十月六					(土)日十月六					
一〇五五	一〇四五	一〇四〇	一〇三〇	一〇〇〇						一七二五	一六五五	一六四九	一三一六	一三一〇	一三〇〇
同	軍司令部着	同	總督官邸着	南方會館着	休息					北投南方會館着	同	臺北驛着	同	臺中驛着	千千ノ家着
										自動車		汽車		自動車	
					南方會館					南方會館					
										青果市場見學					

陸軍

日 四 十 第			日 三			
(火)日三十月六			(月)日二			
未	足		一 一 三 〇	一 一 一 五	一 一 一 〇	一 一 〇 〇
同	臺北飛行場着	鐵道ホテル着	鐵道ホテル着	日赤支部着	同	俘虜收容所本部着
		自動車				
			鐵道ホテル			
見送員	收容所、外事課、日			博物館、龍山寺、大稻埕		

前書

建路ワザワザ御苦勞千萬マス

前萬國赤十字社日代設ドクター、ハラウイチニ氏ガ昨年當收春  
所觀察後測ヲ得ア長遊セフレタルニ對シ衷心ヨリ申慰ヲ致ス

前書

遠路ヲザリザ御苦勞千萬ナス

前高麗赤十字社日代役ドクター、ハラヴィチニ氏ガ昨年當收容所觀察後病ヲ得テ長逝セフレタルニ對シ衷心ヨリ弔息ヲ表ス

## 臺灣俘虜收容所一般狀況

昭一九、五、二〇

當收容所ハ昭和十七年七月本所ヲ臺北ニ分所ヲ島内數ヶ所ニ開設以來其ノ一部ハ逐次收容人員ノ増加ト交通運輸給衛生等ノ關係上移轉移動ノ爲多少施設ノ不充分ナル點ヲ免レサリシモ現在ハ概本完成シ其ノ取扱ハ日本武士道精神ニ基キ公正ナル待遇ヲ與ヘ勞務ト給養ノ合理化、各種娛樂設備、園藝、家畜ノ飼育、衛生諸施設等逐次工夫改善ヲ加ヘ保育衛生狀態優メテ良好ニシテ收容當初ニ比シ格段ノ差アリ、收容俘虜亦頗ル柔順、平靜ニシテ其ノ増ニ安ンシ平和克復ノ速カナフンコトノミヲ庶幾シツツアリ

以下項ヲ分チテ更ニ説明スヘシ

第一 所長ノ俘虜取扱方針

- 一、無爲徒食ハ憂鬱、倦怠ノ基ナリ、相應ナル勤勞ニヨリ明朗爽快ノ日ヲ送フシム
- 二、衛生諸施設ト保育ニ徹底シ死亡者ノ絶無ヲ期ス
- 三、定量定額内最大限ノ給與ト自産自給ニ依リ健康増進ニ努ム
- 四、家族トノ緊密ナル連絡ヲ保タシメ不安ノ念ヲ除去セシム
- 五、收容長期ニ亘ル心境ヲ悠養シ騒暴妄動ノ絶無ヲ期ス

第二 現況

一、收容人員

現在國籍階級別人員左ノ如シ

國籍	將	官佐	官尉	官	准士官以下	非軍人	計
英國	三七	八三	一一一	一七九	六	七	二〇四
米國	一八	一三三	五	七八	一	一	一三五



和蘭	一〇	三五	六	二四	一五	九〇
濠洲	五	九	八	一四	一	三七
其他	一	二	一	二		六
累計	七一	二四二	一四一	一九一四	二四	二三九二

二、給與  
ノ、衣類

携行衣服ノ他准士官以下ニハ日本軍服ヲ貸與シ將校ニハ希望  
ニヨリ冬服ヲ調辨セシム又勞戩用作業衣、作務靴ハ別ニ支給  
シ現在何等支障ナシ

2、糧食

糧食ハ日本軍ト同様米ヲ主食トシ時々パンヲ支給ス其ノ量ハ  
直經勞ニ依分シアルモ國民食糧配分ノ原則以上ノ量ヲ配分シ  
副食物モ亦國民配給量以上ナリ

患者ニハ醬ニ牛乳、鰹魚、スープ、粥、果物等患者食ヲ給ス  
3、日用品

日用品ハば箱シ向物品販賣所ヲ開設シ日用品ノ外菓子、果物  
調味品等ヲ販賣シツツアリ

### 三、勞 役

准士官以下ニハ勞役ヲ科ス勞働時間ハ晝食時間ヲ除キ六時間半  
ナリ、賞銀ハ西保ニ於テ自由ニ使用セシム、且曠日ハ休養セシ

### 四、衛生狀況

收容當初ハマラリア、大腸炎、氣管支炎等相當多數患者アリシ  
モ氣候風土ニ馴レント醫事諸施設、給養ノ合理化、治療ノ適切  
ニヨリ現在患者ハ昨年同期ニ於ケル患者數ハ二分ノ一ニ減少ノ  
好成績ヲ擧ケツツアリ（別表第一、第二、參照）

赤痢、チブス、コレラ、ヂフテリア、天然痘等ニ對シテハ豫防  
接種ヲ實施シ現在患者ナシ

脚氣豫防ノ爲全員ニ酵母劑ヲ與ヘ又マラリア豫防ノ爲防蚊處置  
豫防内服等日本軍同様ノ取扱ヲ爲シ患者ハ逐次減少シ現在四十

名ナリ

治療ハ日本軍醫隊ノ下ニ俘虜軍醫以下ノ衛生人員ヲシテ當ラ  
 シメ俘虜軍醫隊當者無キ齒科ノ如キハ別ニ齒科醫ヲ囑託ス  
 重症者ハ陸軍病院ニ入院セシム  
 結核患者ハ隔離病棟ヲ新設シ現在九名ヲ收容シアリ  
 以上ノ如ク衛生状態ハ極メテ良好ナルカ更ニ療養所ヲ特設シ内  
 容外形ヲ整備シ患者ニ徹底的治療ヲ加ヘ死亡者ノ絶無ヲ期スヘ  
 ク目下計畫中ナリ

五、通信

電信ハ一般ニ八月一因規定ノ端書ニヨラシメ高級將校ニハ封書  
 ノ電信、ラジオ通信等ヲ許可ス  
 受信ハ最近五萬餘通ヲ受信シ職員晝夜兼行ノ努力ヲ拂フノミナ  
 ラス英語教員學校生徒等ノ勤勞奉仕ニヨリ極力迅速ナル處置ヲ  
 講シツツアリ  
 尙現地ニ抑留サレアル家族ニシテ通信無キモノニ對シテハ特ニ

所長ヨリ現地當局ニ照會スル等出來得ル限りノ便宜ヲ供與シテ

六、送金

現地抑留家族ニ對シ送金ノ請願多カリシヲ以テ時局柄多大ノ困難ヲモ顧ミス關係方面ト折涉ヲ遂ケ現地軍ノ同清アル措置ノ下ニ去ル四月左ノ通り第一回送金ヲ實施セリ

瓜哇 三六名 三四、五〇〇圓

比島 三名 三、〇〇〇圓

馬來 三名 三、〇〇〇圓

七、物品販賣所

各分所ニ物品販賣所ヲ設ケ煙草、紅茶、果物、甘味品、日用品、文房具等ヲ販賣シツツアリ

八、帶亞丸救恤品

五月五日多數ノ救恤品到着シ直チニ配分可能ナル食料品小包ハ第五、第六分所ニハ五月八日配附、其儘ノ分所ニハ豪雨ニ依ル